

岡山名所圖會

岡山名所圖會序

玉敷の京都わたりまはいささけの所みてもそれの名  
 所圖繪くれの名所案内かどいふものゝあまたありて  
 鳴神のとがどにきこゑたるも中へに古きあとかど  
 はえてくぐの國よころたなるめれされどうもれ木の  
 うづもれはてゝ世もあらぬはげもあるは口をしき  
 ことよかんこゝに我岡山の里はるげとも真中よあ  
 りて昔より名よおふ山の世またかくきこゑたるをい  
 かよせんふれ天さるひかよしあればある人かくて  
 やとぬるところまたいと口をしけれさるを今し世の中  
 ひらけゆく御代の眞盛よ舟より車より海よ陸よ道ひ

らけて鳴神の遠きわたりの人等もたやすきよふ  
 こととばかりぬされととみはきたらんよはいつきよ  
 りまづ見もてゆるんたつきしなげればこふまめつら  
 しき所々をあげられまじし圖をさへ加へて岡山名所  
 圖會とはなづけられたりげまめてたさふみましてこ  
 れやこのひらけゆく道の老どりのがたえしともなり  
 なんものうとよるとひうれしうつうかくいふものは  
 いくひのむさつのあるじ岡直廬

岡山名所圖會

讀紫樓主著

岡山

岡山名所圖會  
 南、平砂渺々として際無く、東、大河漫々として尽きず、西、田園漠々として望濶く、  
 北、村落々々として依稀たるもの、これ往時の岡山にあらずや、而して今や万有餘の  
 家屋軒を並へ、鐵路東西に開通し、涼船日夜往來し、全市に住するの民、四万五千  
 有餘、工業興り、商業進み、その繁華觀るに足るべきものあり、抑も浮田氏のこの城  
 を築きし時に方りてや、豈、かくの如くあるを期せんや。池田氏、三百年、こゝに居  
 城と占め、三十餘万の封土を提げて、民に臨む。その土の漸く變じて、舊時の面目を  
 改むるもの、もとより怪しむを須ひざるあり。惟ふに盛衰は天の數あり。今の岡山の  
 繁華は從來如何なるべき。地は中國の上位を占め、交通の便なる、その比、稀にし  
 て、氣候の宜しき、之に較ぶべきもの少し。これを自然に問はざ、そのみす。繁華

岡山名所圖會



岡山

讀紫樓主



南、平砂渺々として際無く、東、大河漫々として尽きず、西、田園漠々として望濶く、北、村家落々として依稀たるもの、これ往時の岡山にあらずや。而して今や万有餘の家屋軒を並へ、鐵路東西に開通し、涼船日夜お往來し、全市に住するの民、四万五千有餘、工業興り、商業進み、その繁華觀るに足るべきものあり。抑も浮田氏のこの城を築きし時、方りてや、豈、かくの如くあるを期せんや。池田氏、三百年、ここに居城を占め、三十餘年の封土を提げて、民に臨む。その土の漸く變じて、舊時の面目を改むるもの、もとより怪しむを須ひざるあり。惟ふに盛衰は天の數あり。今の岡山の繁華は從來如何かなるべき。地は中國の上位を占め、交通の便なる、その比、稀にして、氣候の宜しき、之に較ぶべきもの少し。これを自然に問はざ、そのます、繁華

岡山

岡山

を看るべきや、もとより論を俟たざるなり。然れども、人為は自然を制するなり。わが岡山の住民にして、その自然を頼み、悠々として閑日月を送らば、一夢の中にその繁華と消失して、他に移るべき耳。看よや、鐵路開けて、わが岡山の商勢と漸や變せんとするものあるを。盛衰の機、一たび動けば、看まへその光景を一變するあり。而してその機を運轉するものは、實に人に在りて存す。わが岡山の地たる、前途望多しといふを得べしと雖も、而も棄ててこれを顧みざれば、空しく往時の繁華を追懐して、死兎の年齒を數ふるに至るべき耳。ア、多賴の時代之既に去りて自賴の時代來たり。藩主の威武を以て、繁華を維持するは、三百の夢。醒め來らば、これが人民たるもの、愈々繁華の域に進むの途を求めざるべからざる也。抑も岡山の工業は如何。岡山の商業は如何。觀察一番、われその満足せべからざるを知る。知らず、後來盛衰の機如何か動くべき。その之を論ずるは、この書の本旨にわらず。われは今の見るところを寫して、一はこの地に遊ぶものゝ指南に供へ、一は他年に至りて今日を視れば、その盛衰如何あるべきかを知るの便に供へんと欲する耳。若しそれ記事の詳畧ある

岡山名所圖會

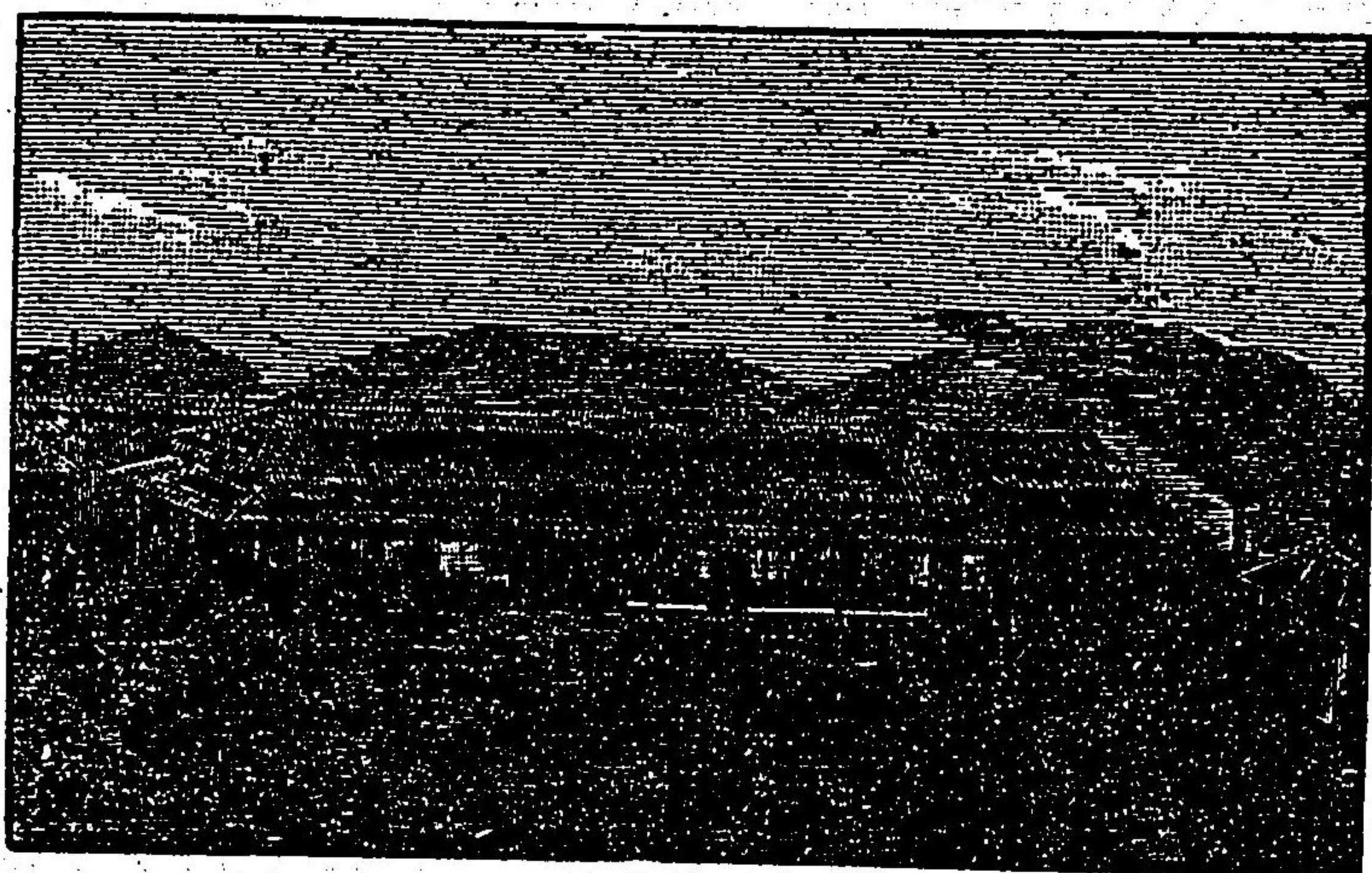
岡山名所圖會

は、見聞の廣狹如何によるものにして、別に意あるにあらざる也。

岡山停車場 (上出石)

鐵路開けて交通繁く、昨は十日を費して、僅に達したるの地も、今は一日を出でずして、早く往くことを得、然ればこの便によりて、西より、東より、來り集るもの、往時の比にわらず。わけて岡山は中國の一都會、東は神戸、大阪サテは京都より、西は廣島、山口サテは九州より、商賣のため、漫遊のため、日に入り込むもの、その數頗る多く、これ等は多く山陽鐵道に便を假れば、停車場の般賑は、また近傍に稀なるところ。停車場は岡山の市街の西に接し、御野

岡山停車場



(岡山停車場)

岡山山名所圖會

岡山縣尋常師範學校。

郡石井村上出石の中に在り。近き頃まで、この邊はすべて田圃なりけるに、山陽鐵道會社にて、廣く地面を取り圍み、停車場の地位を、こゝに定めてより、人々眼をこゝに注げ、その近傍に家屋を建築し、荷物問屋に旅人宿、料理店に賣茶亭、軒を並べて客を招き、瀟車は日に數回の往復なせば、その景状また往時のことさにあらず。數十輛の人力車は、常に轍を並べて客を待ち、一呼すれば、健脚疾走、意のままにならざるなく、その岡山に入る道路は、停車場を置かれし後、有志者の開くところ、幅員廣くして砥のごとし。停車場を出て、北すれば、直に國道に出づるべく、その國道に近き地に三好野花壇といへるあり。元は某の別墅なりしが、近ころ修繕して旅人宿兼料理屋となりたるものにて、亦、岡山の同業にて指を屈せらるるものの一。サテ國道より西すれば備中地方に至るべく、名高き吉備津神社または稻荷神社もこの道よりし。東に向へば岩田町、旭川の支流なる西川の流あり。橋を渡りて富田町も過ぎ往けば右の方に

岡山縣尋常師範學校 (西中山下)

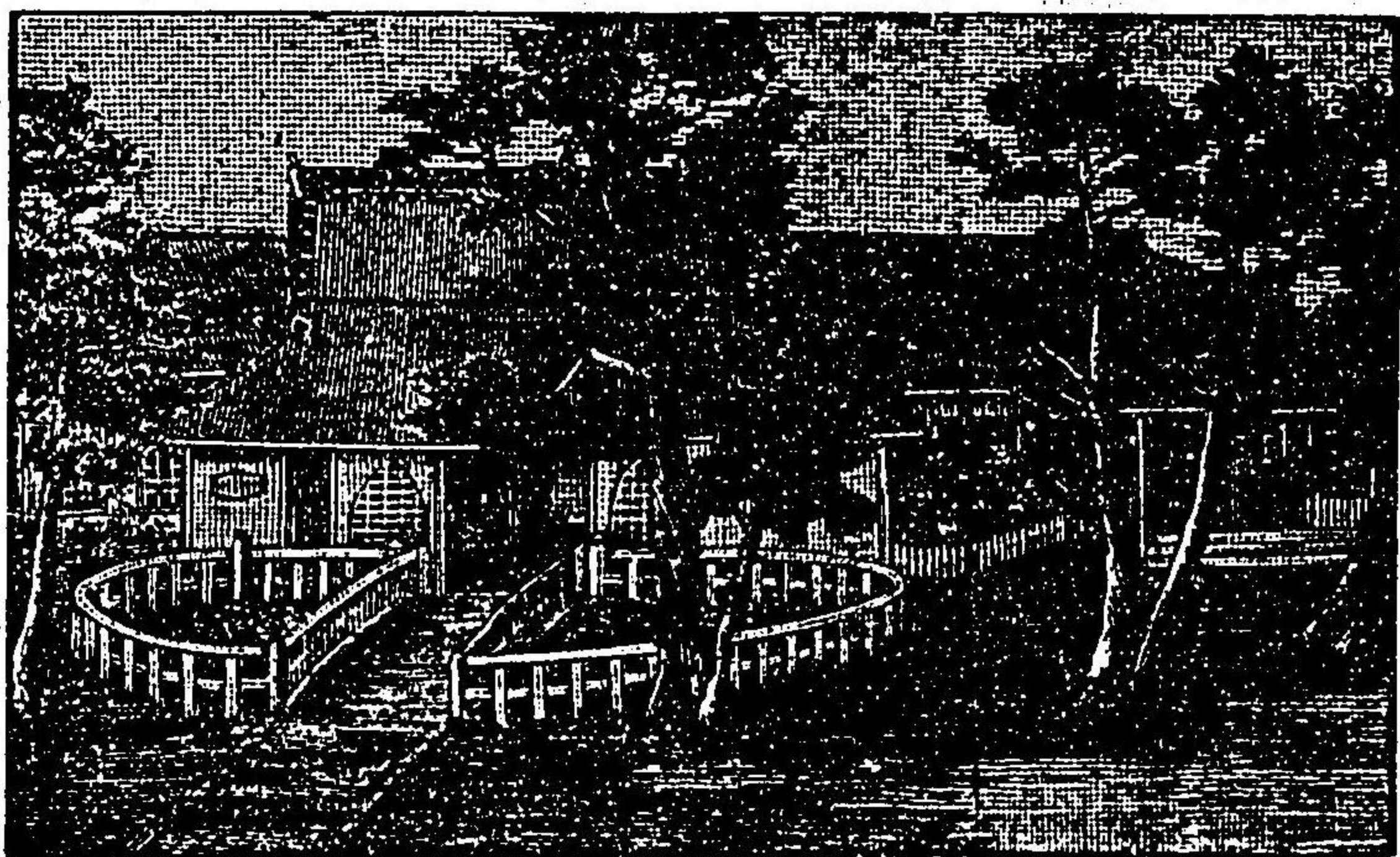
岡山山名所圖會

の寄宿舎、一帯に建築せられ、構造二層にして、素樸清潔。これより南一構は、みな學校の區域内。

岡山縣尋常中學校 (西中山下)

も亦、この内に設けらる。抑もこの學校は往にし昔、寛文八年岡山藩主池田光政侯、園乘院及び諸士の家邸拾七軒を、他に移して、こゝ學校を設立したるものにて、同九年七月二十五日落成し、南六拾三間半、北百十間、南北の長さ百拾貳間にして、講堂は九間拾一間、中堂は三間に六間、食堂は六間に九間。その東西に學舎を設け、東は五區にして各三間に五間、西は五區にして各三間に六間とし、何れも柳木を以てそ

岡山縣尋常中學校。



(岡山縣尋常中學校及岡山縣尋常師範學校)

岡山山名所圖會

岡山縣尋常中學校。

の舎に名く、その東に在るものは、曰く菊舎、曰く蘭舎、曰く梅舎、曰く橘舎、曰く梧舎。その西に在るものは、曰く杉舎、曰く槐舎、曰く柳舎、曰く竹舎、曰く松舎。その東に在るものは武を講ずるの舎とし、その西に在るものは文を肄ふものとす。その他外部に役員の官邸有り。西に一道の馬埒と設け、文武講習の便備はらざるなく、寛文九年七月二十五日開校の式と舉行したるより、未だ曾て啣語の聲と絶たず。維新以後普通學校と稱し、專ば洋學を講習し、大に學風を一變したりしも、官の保護を絶ち、改めて遺芳館と名け、僅にその遺響を嗣ぎしが、師範學校の設立さるゝに及び、この家屋を用ゆることとなり、中學校もまた、こゝに設置し、家屋の漸く廢頽するを以て、講堂等の他は皆な之と改築し、更に從來の校地の西に在る濠埋地を入れて、運動場となし、表門の東南に在る邸宅を、購ふて幼稚園を建築し、大に面目を改めたり。然れども樹木等は今は尙ほ舊時の觀を存し、表門を入れれば、十數株の老松、諸所に蟠屈し、偃蓋天と掩ふて、清風掬すべく、講堂に入るの前、一小池あり、名けて半球といふ。その形、球を割きたるごときと以てなり。その四邊環ふすに石柵を以てし、

岡山山名所圖會

中央に石橋を架し、渡れば一面に瓦を敷き、左右より講堂に通ず。その間一小區の地あり。小石を敷きて点塵を止めず。その上講堂の楯間に「學校」の二字を書したる扁額を掲けたるは、往古より唯學校と唱へて、別に名と命せざるを以てなり。師範學校は地の東部を占め、中學校は地の西部を占め、絃誦の聲絶るす、幾多の英才、這裡より輩出し、國家の材となるべし。抑も芳烈池田侯の初めてこの國に封を移さるゝや、戰國時代を距る遠かかず、心を學に傾くるもの少し。侯獨りその間に在りて、遠く師を藤樹の門下に招き、經世の學を講せしめ、今に至るまで、貳百有餘年、未だ曾て絃誦の聲絶へず。その遺徳流風の今に至りて、尙ほ存ざるを見る。ア、亦、盛なるかな。

岡山監獄拘留監 (弓ノ町)

岡山學校の北に當りて、一廓あり。西南、板塙を以て囲み、東に表門あり。之を岡山監獄拘留監とす。この地、岡山藩の政を執りしとき、牢獄と設けたるの處又して、白晝尙ほ人の往來する稀に、陰森として、自かゝ凄氣の膚と襲ふを覺へたりしも、今は四通八達の衝に當り、大に面目を改めたり。その死刑を執行する、今尙ほこの監の

岡山監獄拘留監。

岡山名所圖會

精米會社。尋常岡山小學校第一支校。瑞雲寺。  
境内にて、その西壁の外より望めば、絞殺臺の見ゆるあり。その北隣に高く烟筒の拔  
んずるものを

精米會社 (弓ノ町)

とす。規模大ならずといへども、晝夜春聲止まず。その南に

尋常岡山小學校第一支校 (弓ノ町)

あり。初め岡山市街に五小學校を置くや、この校を弘西小學と名け、第一番學區に屬  
したり。明治十八年火を失して家屋蕩盡す。有志の徒之を憂ひ、更にその隣地を購ひ、  
大に境域を廣め、新に校舍を建つ。之を往時に視れば、頗る便利にして、運動場も  
廣く、稍や完備したるものといふべし。岡山市に一の尋常小學校を置き、その他を支  
校とするに及びて、之を第一支校とせり。その校門の前に小石橋あり。之を渡りて北  
すれば、町名を三番町といふ、その右側に

瑞雲寺 (三番町)

あり。金五中納言秀秋の靈と祭り、また肥後より加藤肥州清正の像を迎へ來りて之を

岡山名所圖會

祭る。當時傳説あり、いはく、備前岡山三番町瑞雲寺、肥後からさつた清正公、  
ナヤ、燈が三人立ちました。と以てその信仰せしもの多かりしを見るべし。今は寺  
院漸く衰頽し、人の參詣するもの少なし。その北に

淨覺寺 (小畑町)

あり。眞宗に屬す。今は廢頽して寺門跡を止めず。之を右に折れて、小畑町に出で、  
更に北すれば、

伊勢神社 (小畑町)

あり。伊勢神社は岡山市中の有名なるものにて、境内稍や廣く、往時岡山藩主の尊崇  
するところ、神官亦、地位高く、禰宜之に副ひたり。維新以後縣社となりたるも、そ  
の氏子たるもの少く、隨ふて舊時の面目を維持する能はず。境内に松杉の年古りたる  
多く。中に一老松あり。斃斃として龍の蟠するがごとく、その傍に一大楓樹あり。然  
れども人の之を賞するものなし。社の表門より東して、磴道を上れば、宇兵團といふ。  
兵團は往時

淨覺寺。伊勢神社。



御行旅所。

御行旅所 (兵團)

といふ。御行旅所は旭川の濇に在り。東は芥子山に對し、南は岡山城及び後樂園を臨み、北は秦嶺龍山を眺め、西は通路に接し、四面繞らるに堤防を以てし、之に植ゆるに松樹を以てす。老幹蟠屈して、互に威を争ふ。概皆な二百五十年以前の物。松嶺は水聲に和し、時に棹歌と合するごとし。美作國眞島、大庭の兩郡、若くは備前國赤阪其他諸郡より降るところの高瀬船は、必らず此處に集りて用を辨し、その多きときは百艘にも達することあり。兵團の諸商店は多く此輩の者と花主とし、その利をまるところ頗る大なり。抑も御行旅所は寛永廿年岡山藩主池田光政侯東照公を東山に勧請し、正保三年その祭禮を執行せしときに弔まるものにて、祭禮の當日は神輿を奉じて此の地に來り、諸士之を警備し、その式の嚴ある、蓋その比稀なり。明曆二年九月初めて流鏑馬十番を命じ、寛文六年より同九年に迄り、供奉の諸士甲冑を着け、同十年より颯斗目麻上下を改めたるを以てもその祭典の鄭重ある、知るべく、その域内は總て結纒艸を裁へ、倉庫あり、馬埒あり、射場あり。以て維新の際に至れるも、世の漸

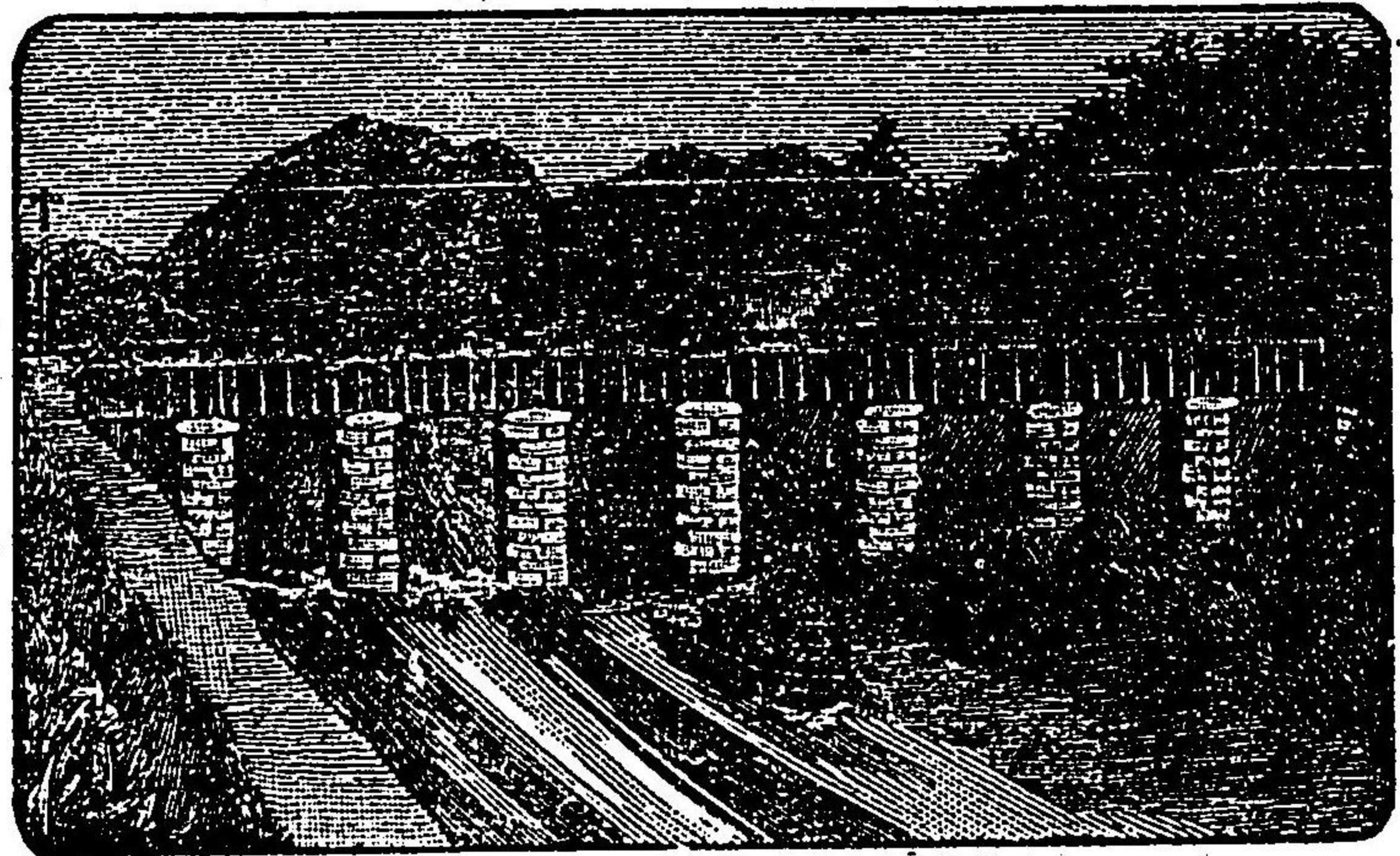
岡山名所圖會

岡山名所圖會

く移るにしたかひ、この祭典も廢せられ、城内は、一時兵士の屯集所となる。是れ兵團の名の因て起る所以にして、西に連なるの竹林は總て伐採せられて、家屋を建築し、兵士の營所とす。廢藩せられ、縣置るゝに至りてや、城内は總て開墾して田圃とあし、家屋は市民の住居するところとあり、今は一の町を爲し、曾て御野郡南方村に属したるも、市町村制の施行するゝに當り、更めて岡山市に編入したり。この地別に觀るべきものなしといへども、亦是封建時代の遺跡。

旭川鉄橋 (南方)

兵團の北に方りて、僅に二町隔りたる地に、虹



(旭川鉄橋)

旭川鉄橋。

御崎神社。後樂園。

のどとく、旭川の上に架するものを山陽鐵道旭川の鉄橋とす。旭川は一に西大川といひ、岡山縣下第一の長流にて、水源より海口に迄る、三十二里二十八町餘、沿岸の村落は之を仰ひて飲用に供し、田圃の灌漑亦一に之に依り、舟楫の便頗ふる宜しく、産するどころの魚は香魚を以て第一とし、鮎、鱸、鰻、鱧の類、之に次ぐ。その架するどころの鉄橋は貳百間餘にして、山陽鐵道線路の中に在りて、稀に見るところなりとす。旭川の西岸に沿ふて北に往き、その窮るところに神社あり。之を

御崎神社 (北方)

とす。地は御野郡北方に屬するも。その氏は岡山市の中にも存し、境域廣からずといへども、參詣するもの少からず。此より左に折れ、竹林に沿ふて南すれば、再び兵團に出で、尙ほ上出石町を経て中出石町と南すれば、左に木橋を認む。之を後樂園に入るの通路とせ。

後樂園 (古京町)

磯川三十餘里、源と美作國龍王池に發し、回り環りて、岡山の街を貫き、末は流れて

岡山山名所圖會

海に入る。其東西に沿へる地の、名勝、古跡、神社、佛閣に富めるは、數へ舉るに暇あらず。中にその最も世に知られしは後樂園にて、岡山城の北に當り、流を隔て、一區を劃し、東西南北、四方を竹林にて圍れ、北は田圃に接し、東は古京町に面し、西は流を隔て、出石町に對し、こゝに橋梁ありて、架す。名けて鶴見橋といひ、近き頃設けたるものにて、往古は磯川の西岸に在る巻石の北の端より、假橋を架けたりしも、今は廢れて、こゝに鶴見橋を設くることとなりしにて、直に園の北門に通ずるゆゑ、その便利少からず。橋の長さは七拾間餘にて、まことに粗造あるものとす。抑も園は貞享三年、



(後樂園表門及鶴見橋)

岡山名所圖會

備前國主左少將池田綱政朝臣の、その臣、津田重次郎永忠に命じたまひて、工事を統轄せしめ、翌る四年の十二月、初めて着手することとなり、反別凡そ一万七千七百餘歩を畫り、その後區域の狭きより、元祿三年三月に、又園の北、五千二百五十三坪を増加し、續きて四千餘坪を合せ、總計貳万七千拾三坪餘となれり。此れ現今の後樂園にて、其の周圍九百三十貳間、園の中央を東西に計れば、長さ百九十七間餘、南と北との廣さは百十七間餘なり。地勢は西南の方較や高くして、岡のどとく、樹木生ひ茂りて、深山の趣あり。東北の方は平坦にして、或は松林蒼鬱とし、或は園外を望むべし。園は初め、茶屋屋敷と呼び、後には單々後園といひ、明治四年二月今の名に改めしが、尙ほ池田家の有なりしに、同じ十七年の二月、政府池田章政侯の請を許して、地を納め、岡山縣にて保存することとなりて、一般に公園と思ふこととなりたり。但園の北に一小區を畫し、北門の左に牆と隔て、暫軒あり、その東に開谷神社遙拜所ありて、こののみは、今も尙、池田家の所有に屬し、妄りに入るを許さず、屋を二字に分ち、構造素樸なれども風致あり、窓と披けば、直下に曠川と望み、北には秦嶺諸山

岡山名所圖會

と眺め、最も避暑に宜しく、往時暫軒風とて、後樂園十勝の一なり。園には奇樹異艸各所又散在し、四時花無きことあけれども、禽獸の類は、往古より鶴を養ふのみにて、その多きときは十餘に及びけるが、今はその數、五六にて、晝は之を園裏に放ち、自由に蹠蹠せしめ、晩に及べば、園丁、之を驅りて籠屋に入る。嘹唳の聲、九阜に響き、仙境として、一層風趣を増さしむ。第二の門を入れば、鶴鳴館ありて園中一の大廣間、岡山縣會を開くときは此と議場充て、其他諸種の總會には此を假る多く。其の東南に並ひ連るは延養亭にて、明治十八年、車駕西狩の折から、玉座を設けし處にて、眺望最も潤くして、岡山城は高く南に聳へ、櫻栗子、三權其他の諸山は、東に方りて屏列し、朝夕紫翠と送り來るが中に、瓶井山に屹立せる三層の塔は、園に茂れる樹の中より隠見し、園の諸勝は概ね此より望むべく、亭の前には奇石多く、その間より矮き樹の矮り生て、曠川より引く水は、その中を横に流れ、前面は總て平地にて、結縷艸を植へ列ね、春夏の交は一面に青き毛氈を敷くことし。延養亭の西北に在る家屋を榮唱といひ、その前に花葉の池ありて、此邊幽雅比なく、巨石ありて、池に臨みて屹立

岡山名所圖會

し、高さ四間一尺周圍十三尋に餘るべく、松樹ありて、巖腹に生へ、其奇狀觀るべく、その前後楓樹ありて、最と早く紅染め、明媚掬すべく、此より西を花葉といひ、地勢高く秀で、喬樹千章、蒼鬱枝を交へ、四時日光を遮り、綠苔地を掩ふて、常に清風を貯へ、幽邃高遠にして、深山幽谷の趣あり。中に素樸ある家屋あり、之と茂松庵といひ、茶事に修むるに適す。その南に四天王堂あり。その東に地藏堂あり。その側を二色が岡といふ。此を過れば廣潤の地に出づ。竹林に沿ふて東すれと廉池軒あり。後は竹林を隔て、磯川に隣り、前は池ありて、溝渠縈回し、石橋を架て往來を通す。軒に坐して眼を放たは唯心山東北に聳へ、澤池の水は浴々として、流清く、北林の松は青々として色深し。その東に藤架あり、その幹太く數十歩に延び、紫白色を競ひて花を垂れ、之に隣りて老梅一樹あり、臥龍梅といふ。その北に蘇鉄數十株あり。その下清く掃ふて一微艸を止めず。その東に渠の鑿ちて、多く燕子花と植ゑ、板橋を交架す。蓋、參の八橋に擬するなり。八橋の北に一の樓閣あり、流店といふ。中に棧板左右に動し、その中央に一條の水道を疏通し、奇石を布置し、時ありて水を行る。その東は

岡山名所圖會

總て此れ櫻林にて、その數二百餘春風駘蕩の時に方りては、香雲漠々として、園中の花此境を以て第一とし。之に隣りて梅林あり。幹皆な槎枿として苔蘚之を掩ひ、幽閑俗を離る。その東に一條の道あるを櫻の馬埒といひ、夫より南すれば利休堂あり。その前を花交瀑とし、池あり、常に水と湛ゆ。櫻林の北に千入の森といひ楓樹數十株、天を掩ひ、秋霜一び至れば、滿目の錦繡燦爛として畫も亦、及ばず。その東北に新亭あり、窓を披けば、園外の曠野總て眸裏に入る。園の中央に屹立するを唯心山といひ、園中第一の勝景にして、全山樹木繁茂し、亂石突起し、更に寸地を餘さず。山頂較や平坦にして遠望に富み、園中の勝景は論なく、遠く龍山の山脈を望み、時あ漚車の黒烟を吐きて走るを認むべし。側に小亭あり、唯心堂といふ。杜鰯花と躑躅と山の大半を掩ひ、初夏の候は紅白色を争ひ、その美、言ふべからず。山を北に下れば澤池ありて園中第一の大池にて、其の中に島嶼三あり。板橋を架して往來を通じ、小亭を建た遊息に供す。四方に矮松を繞らし、怪石、白沙の中に立ちて、自かく海島の趣あり。澤池の北に方りて、由加神社と慈眼堂あり。由加神社は拜殿、繪馬堂、祭器の倉

岡山名所圖會

岡山縣廳

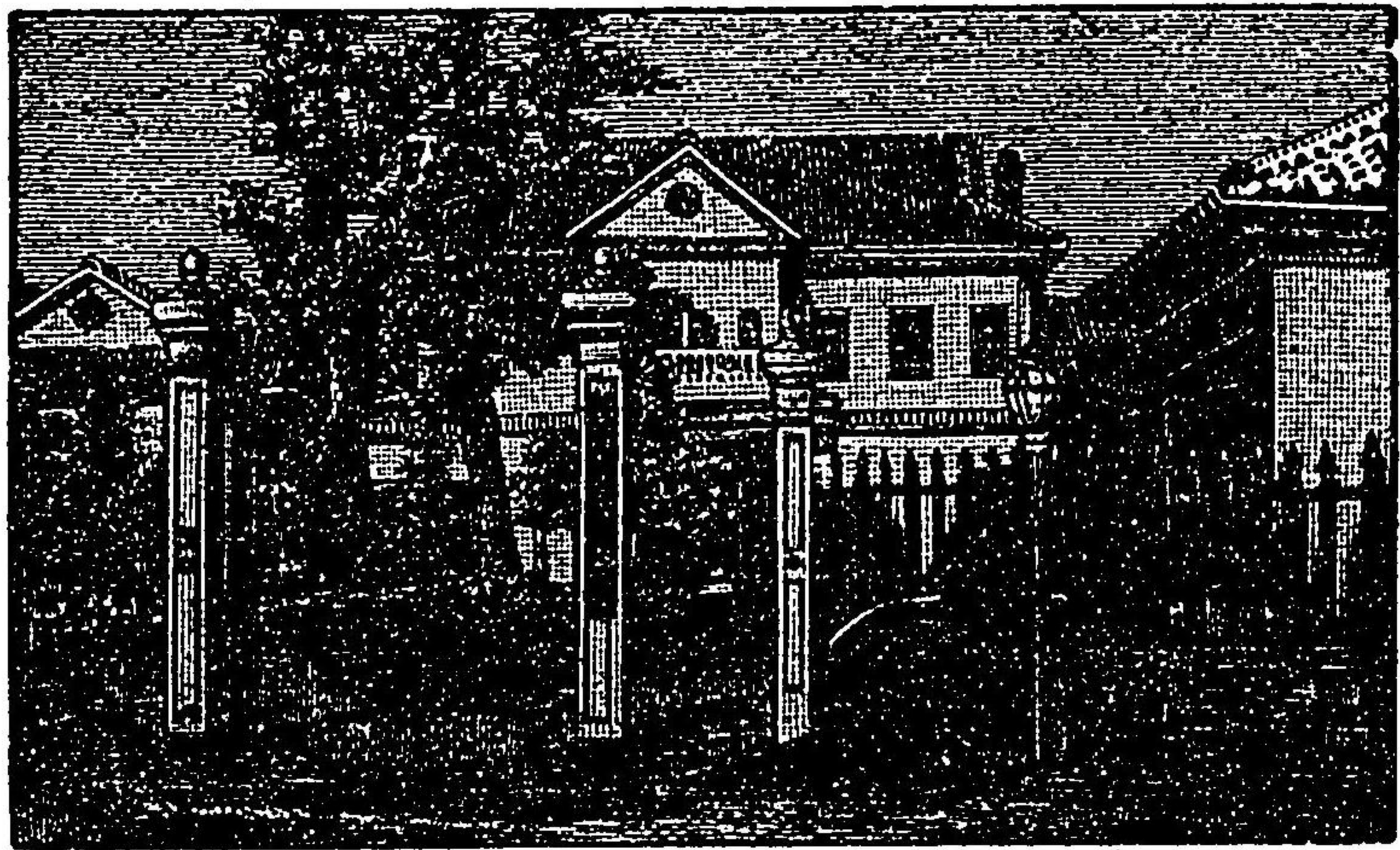
庫まで備はり、原、東京の池田邸に在りしを移せしなり。慈眼堂と池に向ひて仁王門を建て、その側に梵鐘堂を築き、佛殿は巨石を疊て礎とし、石階を設けて、上下に便あす。堂の側に高さ二間餘周圍九尋の石あり、名けて烏帽子岩といふ。此より池に沿ふて往けば寒翠細響軒あり。園の風光を領せんと思はざ、此邊よりをべし。此の北は總て松樹直立し、幹老ひ枝繁り、閑雅比あし。之に隣りて馬埒あり、射圃あり。また延養亭に隣りて能舞臺あり。その他家屋の結構布置、山水の光景眺暎等一々記さば一部の書とするに餘りあり幸に翁堂居士先以後樂園詳誌を著はしたれば、就きて見らるゝあらば、此の園の世に特出したるを知り、併せて雅遊の友となすに足らん。

岡山縣廳 (弓ノ町)

後樂園を出でて、再び鶴見橋を渡り、左に折れて下出石町を過ぎ、石關町に出れば、右に大厦の屹立するあり。之を岡山縣廳とす。藩廢せられ、縣置かるゝの當初はその麓の邸宅を使用せしが、後この地に新築して移轉したるなり。傳へいふ、この地と岡山の市街未だ開けざるの時、一の沙山にしてその頂あり、と。名けて天満山といひ、

岡山名所圖會

山嶺に天満宮を祭る。後岡山藩主池田侯の支封池田家の邸宅とあり、以て維新の時に至れり。その鎮座せしところの天満宮は貞享四年丁卯六月二十五日酒折宮の内に遷宮したりといふ。この地東北西の三方は濠を以て囲み、白蓮こゝに生し、盛夏の候は花盛に開き、人目を快うするに足る。山上には楓樹の頗ふる老ひたるもの數株あり。新霜初めて下りて漸く紅を染め、その色深きに至りて、遠くより之を望めば、一團の錦繡のごとく、夕陽相映するに至りては、幾んど中天に輝くごとく、その景の佳なる、亦觀るべきものあり。然れども地、廳内に属するを以て、固より人の縦に覽るを許さず。



(岡山縣廳)

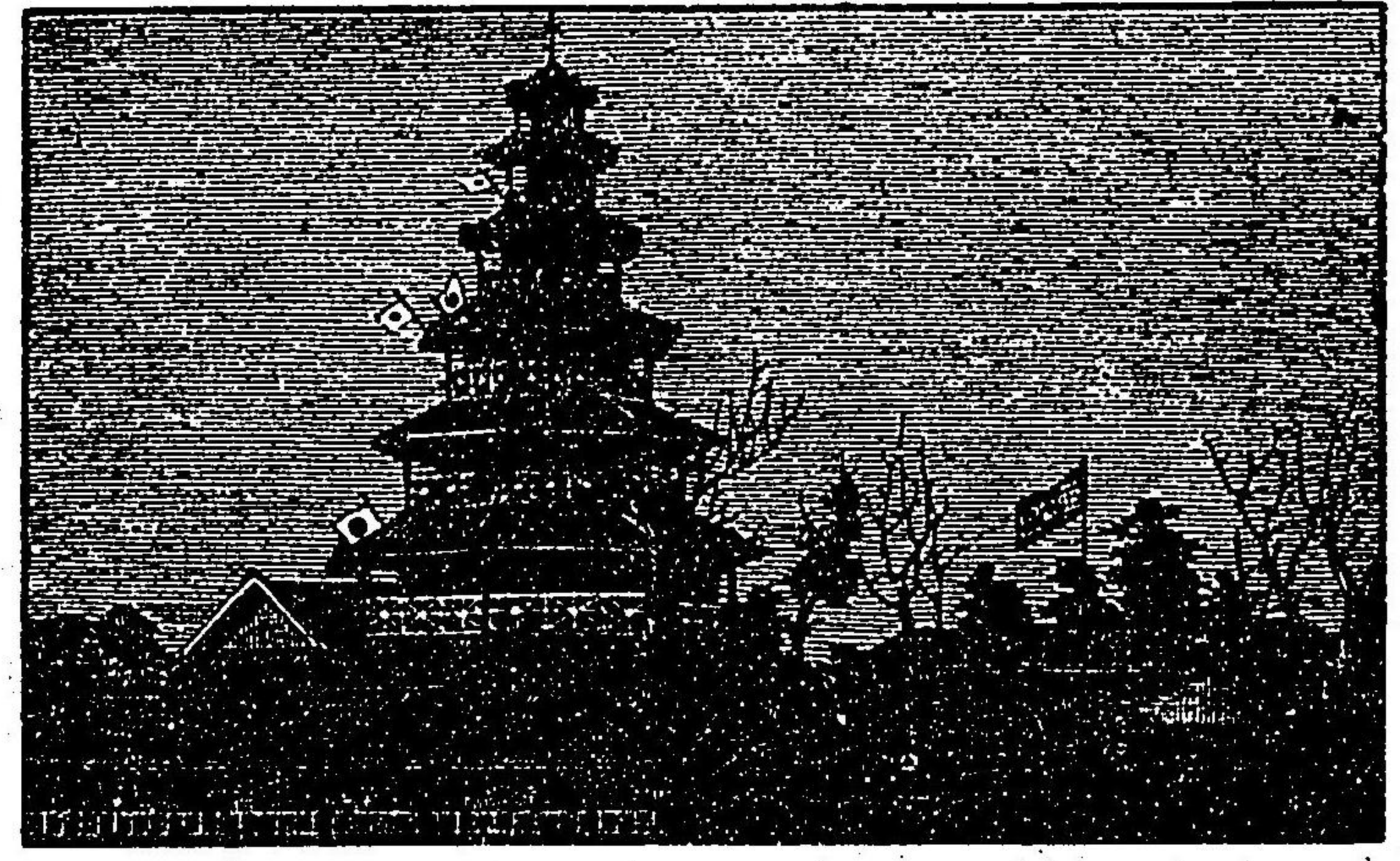
亞公園 (石關町)

岡山縣廳の門に相對して、一廓を成せるもの、之を亞公園とす。この地素と岡山縣廳の地に積きたるところにして、同じく池田家邸宅の有りし地なり。後岡山縣病院を設くるに當りてや、この地に病室を築き、濠を隔てて事務室等に通せり。明治二十四年病院を内山下に移すや、この地を拂下げて民有地とす。所有主即ち土木と起して、こゝに家屋を建築し、衆庶の遊憩地とす。その名けて亞公園といふもの、時の岡山縣知事千阪高雅の命するところなりといふ。園の中央に七層の樓あり。高さ一百尺、名けて集成閣といふ。登閣料を拂ふて、上れば岡山全市は論なく、南、兒島灣を望むべく、東、東山に對し、西、御野郡と眺むべく、北、秦嶺諸山に面し、その眺曠頗る瀾大あり。之を降りて、その西に天満宮あり。往時の跡と追ふて新に造りたるものにて、之に隣りて天神茶屋あり。汁粉を賣る。園の北に一の家屋あり、之を菅の屋といひ、料理と兼て旅宿を營む。これ園中第一の家屋にして、三層より成立し、室多くして、その体一、西隣に金成湯あり。湯は美作國眞島郡禾津村湯谷の鑛泉を汲み來るもの

岡山名所圖會

岡山名所圖會

して、慢性癩麻質斯、婦人生殖器の慢性諸病貧血諸病其他に適すと云ふ。菅の屋の東に小徑を隔てて、寄席あり、天神座といふ。これより南に隣りて、屋宇接比し、汁粉屋あり、酢飯屋あり、牛肉屋あり、玩具を賣る者、小間物を賣る者、雜居し、その極るところに、梅賞堂といふものあり。菓子を賣る、梅園子最も名あり。これより西に折れて左に三樓軒を接して建つ。東に在るものを菅梅樓といひ、中に在るものを菅竹樓といひ、西に在るものを菅松樓といふ。之を園中の三大樓とし、各酒肴を供へて客を待つ。園の中央に樹木を植へて、一區を爲し、之に沿ふて球突場あり、揚弓店あり。凡そこの園



(亞公園圖)

岡山名所圖會

岡山神社

に入れば遊興の具略は備はりたるも、その工竣る日尙は淺くして、漸く人の遊ぶもの減じたり。然れど夏の納涼、冬の觀雪、その歩を運ぶもの少からざるべく、亦、岡山市中に於ては、有數の遊息地といふべし。

岡山神社 (石關町)

岡山縣廳の門前を東に往けば、右一の神社あり。石華表を建て、その上に岡山神社と題したる銅額を掲ぐ。千家尊福の筆するところなり。岡山神社はその由來最も古く、天正元年浮田直家社殿を造營し、慶長十八年十二月池田忠繼、華表その他建立するところあり。後破損するところありて、元文五年五月池田繼政新に社殿を造營せ。是現今存在するところのものなり。祭神は正殿に倭迹々日百襲姫命と祭り、相殿は吉備津彦命、倭迹々稚屋姫命を祭り、合祀するところは大山昨命、武安靈命(池田光政)にして池田家の尊崇することも最も厚し。初め同神社は今の岡山城内に在りて、岡山殿といひ、その麓に移して、阪下、また酒下ともいひ、寛文六年酒下を誤まり傳へて酒折といひ、日本武尊を主祭とし、明治元年下宮に更め、明治十六年に至り、今の名とす。蓋し

岡山名所圖會

岡山殿の舊に復したるなり。その創始の年月沿革詳かならざるも、中古社僧二ヶ寺あり。一を福聚坊といひ、一を寶城院といふ。天文年間金光某社務たりしが、その子安藤といへるもの、神官たり。今尙は末社に金光社といふもあり。蓋し、金光あるものは、往時この邊を領したるものにて、岡山城は金光備前守宗高の小城を築きたる地なれば、その神官たるもの、亦この一族たるを知るべし。永祿の頃社殿炎焼し、神寶、舊記、烏有に歸し、天正元年に至りて、浮田直家、社殿を造營して、これに遷座し、城内の鎮守とし、社領を許附し、社僧一ヶ寺を増置す。これを平福院といふ。浮田秀家朝鮮に渡るに際



(社 神 山 岡)

岡山神社

石 關

し、祈願を籠め、歸陣の後、甲冑八領、陣鐘等を寄附せし慶長六年六月五日羽柴秀秋、備前國、津高郡芳賀村の内貳百二十五石を社領として寄附し、同九年十二月池田照直、同郡宮内村の内三百五石を社領として寄附し、正保四年三月池田光政、同郡一宮村長野村の兩村の内若干石を社領として寄附し、以て維新の際に至れり。その役員は往時社務一名、祝部一名、禰宜五名、神子五名、掃除人一名、社僧三ヶ寺たりし。明治六年五月第一區郷社になり、同七年八月縣社となり。大祭日は五月十四、十五の兩日、中祭日は十月十四、十五の兩日なり。境内廣くして附屬の小社多く、社務所あり。神官取締本部及皇典講究分所亦此内に設置せし。社の寶物亦觀べきもの少からざといふ。

岡山名所圖會

岡山神社より右に折れて、往くこと二町餘にして石關に出づ。蓋、石關はこの邊の地名にして、往時深田秀家、大石を以て堤を築き、朝日川を二流に分ち、岡山城の東西に流さしめたるを以て、この名あり。その二流の一は城の麓を東に巡りたるものにて、現に旭川の通ずるもの是なり。その一は西に流れて、今の上、中、下の三町の西裏及

石 關

岡山名所圖會

ひ東中山下の東裏の間を貫通したるものなり。今はその間に在りし濠さへも、埋められて、僅に細き悪水抜あるのみ。石關より南に望めば紙屋町に至るまで、廣き

濠 渠

あり。一面に白蓮生し、その花開き葉展ふるに方りてや、一望總てこれ蓮にして、寸隙を剩さず。亦、是れ岡山の一佳觀。

穴 門 (内山下)

石關を斜に東すれば、門あり。之を穴門といふ。これより以往城内にして、往時はこの門より、石關に出る間、堅固なる土壁を築き、之に諸所、穴を穿ち、以て不時の用に供す。穴門を過れば

石 山 (内山下)

あり。この邊、一帶の巨石によりて組織せられ、地震ふも多く感せず。往時この邊海邊に突出したるは疑ふべからず。曾て石山大明神あり、寛文五年金山寺に移すといふ。後、この地に一の精舎を建て、池田家の爲に幸福を祈りしが、維新の後、廢滅して、

濠渠。穴門。石山。



高等岡山小學校。芳春館。觀風閣。

今は唯老松幾十株の風に颯々たるあるのみ。

### 高等岡山小學校 (内山下)

高等岡山小學校は石山に在り。西。城濠に臨み、境域頗る廣く、地位頗る高し。その坪数は二千八百餘往時池田家の國に守たるや、西丸といひ、その家屋今尚は舊のまゝに用ゆるを以て、漸次破損し、幾んど維持すべからざるものあり。聞く岡山の有志者新築の議あり、と。幸にこの議にして成るあらば、大にその面目を改むべし。現生徒の總数は八百參拾餘名、(明治二十五年七月)にして幾んど一期するに三百餘名の増加あり。平均千三四百名に至るべしといふ。

### 芳春館 (内山下)

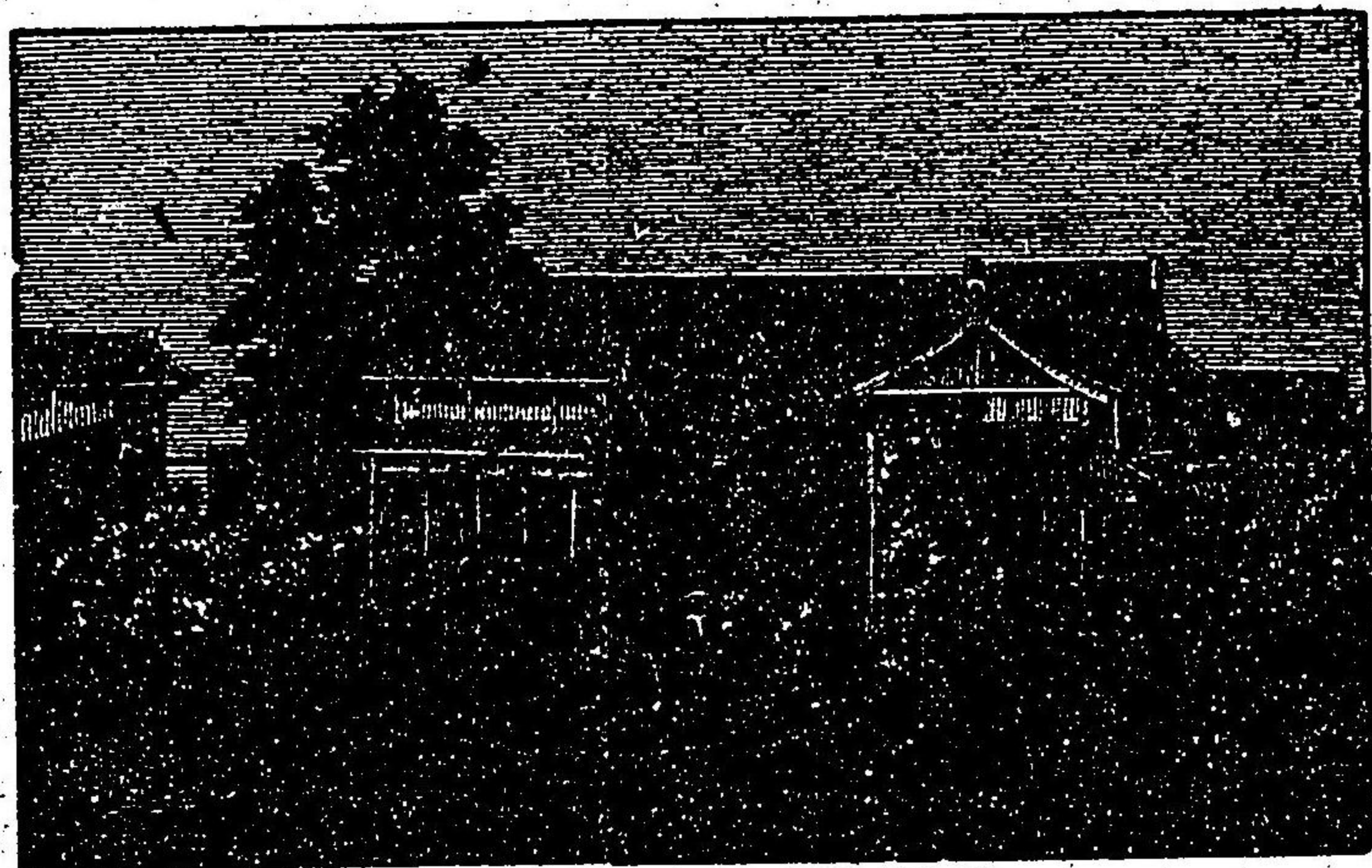
石山を下れば、濠を隔て、家屋あり。その門は東に面し、堅牢にして比少し。その正面と芳春館といひ、西に建つものを

### 觀風閣 (内山下)

といふ。觀風閣と芳春館とは、同一の區域に在りて、往時二の九と稱し、舊藩主の資

## 岡山名所圖會

實に延接し、或は老侯の棲息するところにして、尙ほ他に家屋接比し、その下に諸士の邸宅ありたり。今は二館を除きて、總て破却し、裁ゆるに桃樹を以てし、その花候に方りてや、一望錦霞のことく、天亦これが爲めに紅に、桃源に入るの想あり。二館の庭前には、胡枝花數百株を栽ゑ、亦これ一佳觀。その他月に宜しく、雪に宜しく、四時の景すべて佳ならざるなく。その西に巡れる城濠には紅蓮多く生ず。蓋他の城濠に生ずるの蓮は總てこれ白。而してこの地特り紅なる、亦一奇と謂ふべし。二館は廢藩置縣の後、岡山縣にて管轄せしも、明治二十四年舊城内の池田家に拂下らるるごとくもに、同家の所有



(館 春 芳)

岡山城。

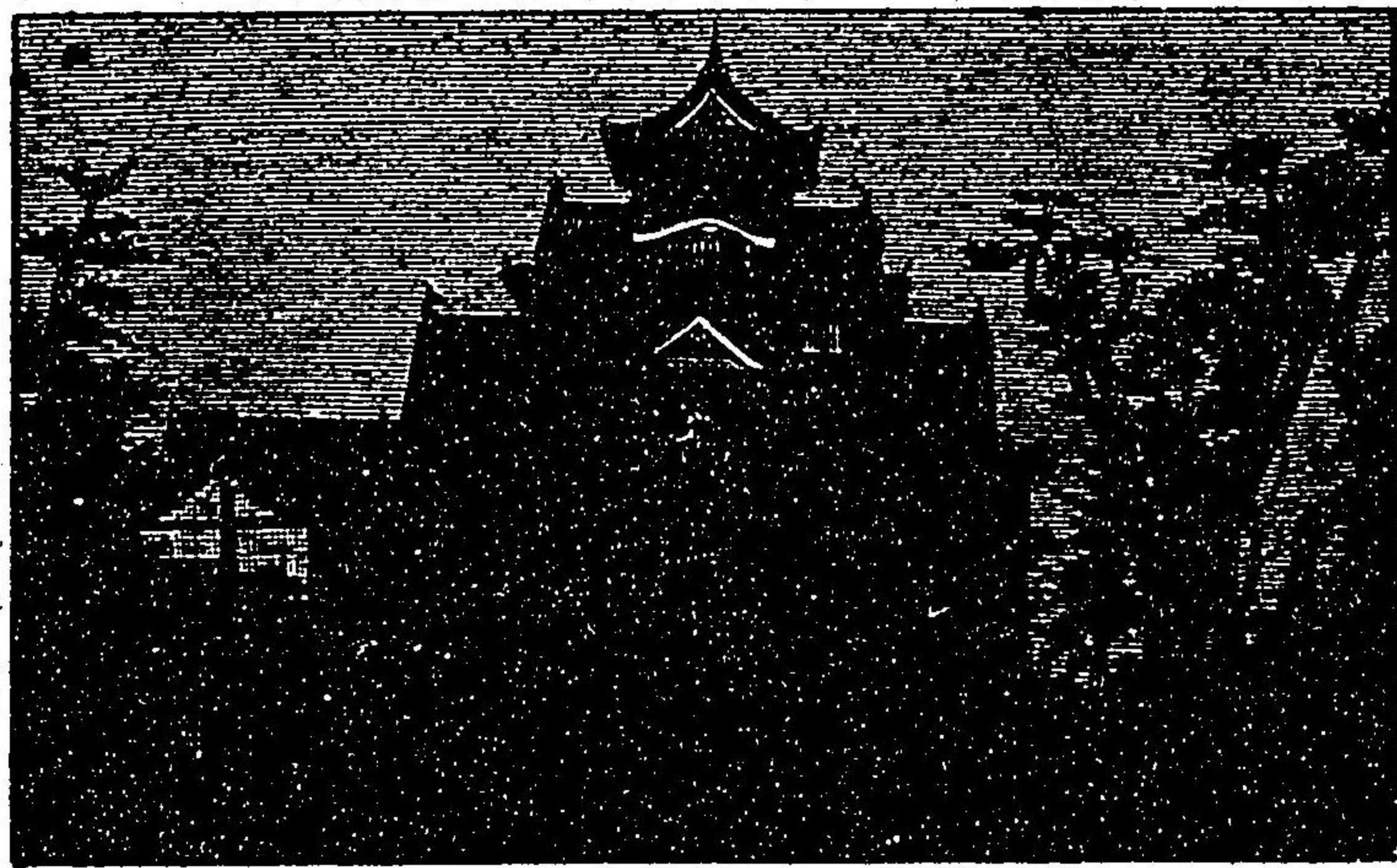
に属したり。而してその衆庶の需に應じて、これを貸與すること前後異なることなく、諸種の宴會は多くこの二館に開かるゝなり。

岡山城 (内山下)

芳春館の東に往けば、北に向ふの道路あり。これ舊城に入るの地にして、往時は木橋を架して、往來を通す。俗に大鼓の橋といひ、その北に屹立する門と大鼓の門といふ。蓋しその門の側は守衛あり。太鼓と懸ちて、時と報せしと以てなり。之を過ぎて東に向ひ、また西に向ひて磴道を攀れば、曾て鐵門を設けたるの地あり。これりよ左右意のまゝに天主閣の許に到るべし。抑も岡山の城たる、浮田能家の旗下の將金光備前守宗高の小城を築くに擬するものにて、この地、一の沙山たり。かの石山、天神山及びこの岡山の三嶺東西に聳ち、南は海に接し、近く松風の音凄く、西は朝日川に臨み、東は今の瓶井山の麓に至るまで、一面の水流にして、人家遠く、山の北み下出石の村ありて、人烟稀少なりし。今の出石町は往時の村落にして、その市町となるに及びて、尙ほその名と西川の西に移したるありといふ。傳へいふ、今の芳春館の邊に

岡山名所圖會

金光山岡山寺あり、浮田秀家、その安置するところの觀音の靈夢に逢ひ汝、前生世々の善果に感じて、三國の主とあれり願くは敷地の内に、その居城と築き、以て利民安世の政を布けよ、と。因て岡山寺を今の磨屋町に移し、その敷地を城廓とし、曾て兵火の災なく、眼に旗旗を見ず、耳に鐘鼓を聴かざりしも、慶長五年庚子關ヶ原の役西軍、利を失ひ、秀家流配するゝに至り、その殘黨の岡山城下に在るを疑ひ、火を放ちて市街を焼きたるも、城廓は依然として毀れず。金吾中納言秀秋之に居り、後、池田忠繼に賜ふ。忠繼世を早くし、忠繼嗣ぎて之に居り、忠繼死するの後、光政代りて之に守となり、以



(岡山城)

岡山城。

岡山名所圖會

岡山測候所。岡山製絲會社。荒手屋敷。

て維新に至るまで、池田家の居城たり。城は東北に朝日川を控へ、南西は濠を以て圍み、四方の櫓樓を築きたるも、今は毀ちて、僅に斷礎の存するを見るのみ。人をして自から離黍の歎を發せしむ。幸に天主閣の巍然として存するあり。略は往時の状態を察するに足る。

岡山測候所 (内山下)

岡山測候所は岡山城天主閣の南に在り。その構造粗雑なとりいへども、地位頗る宜しく、宛も測候所に適したるものごとし。

岡山製絲會社 (内山下)

岡山城の直下、旭川の西岸に、烟突の聳ゆるものを、岡山製絲會社とす。近年創立したるものにして、家屋亦た新築に属し、亦たこれ岡山にて指を屈するの製造所ありとす。その對岸に見ゆる一區畫は

荒手屋敷 (古京町)

と稱し、もと池田藩老臣伊木某の別邸たりしも、今は池田家の有に歸し、その庭園幽雅にして風致あり。通常人の入るを許さず。

岡山縣病院 (内山下)

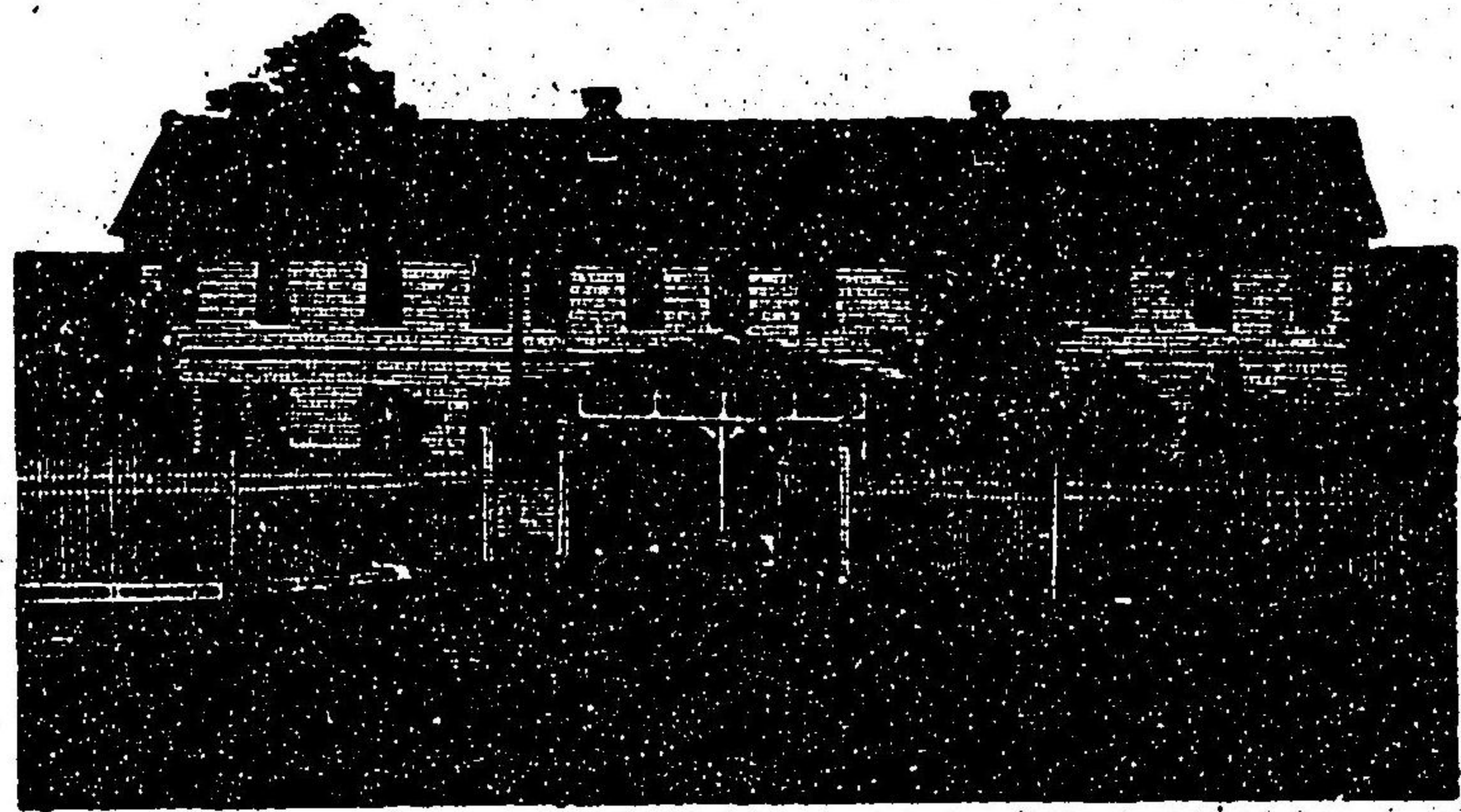
岡山城を出で、舊路をとりて、高等小學校の南を出づれば、宏壯ある家屋あり。之を岡山縣病院とす。院は舊と亞公園の有る地に設けしを、明治二十三年新築し、翌年ここに移りたるものにて、その器具等の完全せる、蓋、わが國に於て稀に見るところありといふ。こゝを以てその來りて治療を乞ふもの、常に院に滿つ。

第三高等中學校醫學部

(内山下)

岡山縣病院の南に在るものと、第三高等中學校醫學部とを、その境域廣濶にして、その屋宇高

岡山縣病院。第三高等中學校醫學部。



(院病縣山岡)

岡山名所圖會

中の町。上の町。下の町。岡山郵便電信局。

爽たり。初め今の高等小學校の有る地に設けしを、病院を新築するに、共に新築して、こゝに移れるものにして、内山下の中央を占め、病院とくもに、岡山の一偉觀なりとす。病院の北を西すれば

中の町

に出づ。中の町は岡山市中の大道にして、その北を

上の町

とし。南に往けば

下の町

あり。町の西側に

岡山郵便電信局

(下の町)



(第三高等中學校學務部)

岡山名所圖會

あり。局は素と市民の家屋と用ひしに、一朝火災に罹り、爲に新築したるものにて、當時は逓信管理局たりしも、後、郵便電信局となり、尙ほこの家屋と用也。地方の郵便局にては、蓋、稀に見るところなり。

榮町

下の町を過れば、榮町なりとす。町の西側に

山陽新報社

(榮町)

あり。山陽新報は明治十二年創立せるものにて、岡山は新聞紙の起仆頗る多きも、その年月の久きは特り山陽新報あるのみ。榮町の極るところ、

岡山警察署

(榮町)

あり。家屋三層より成立し、その境域廣からずといへども、四方より望むべく、その北に

鐘樓

(榮町)

あり。藩政の頃より現存するものにして、その樓の建築頗る堅牢なり。番人ありて、

榮町。山陽新報社。岡山警察署。鐘樓。

岡山名所圖會

紙屋町。西大寺町。橋本町。京橋。  
常に時を報じ、水火の警めれば、亦之を報じ、その聲全市に偏く、人皆なこれを使  
せ。榮町と過されば

紙屋町  
なり。教會所あり。太神宮を祭る。これを過されば

西大寺町  
に出で、東すれば

橋本町

なりとす。上の町より、ここに至るまで岡山全市中の最も繁榮なるところにして、百  
貨備はらざるなく、往還亦國道に屬し、平坦砥のどとく、真に中國の都會たるに負か  
ずと云ふべし。

京橋 (橋本町)

京橋は橋本町の極東に在りて、旭川に架するものなり。その長七拾間餘にして、木  
造たり。その堅牢なること、亦た類少きものにして、その橋柱のとき、幾十數年を

岡山名所圖會

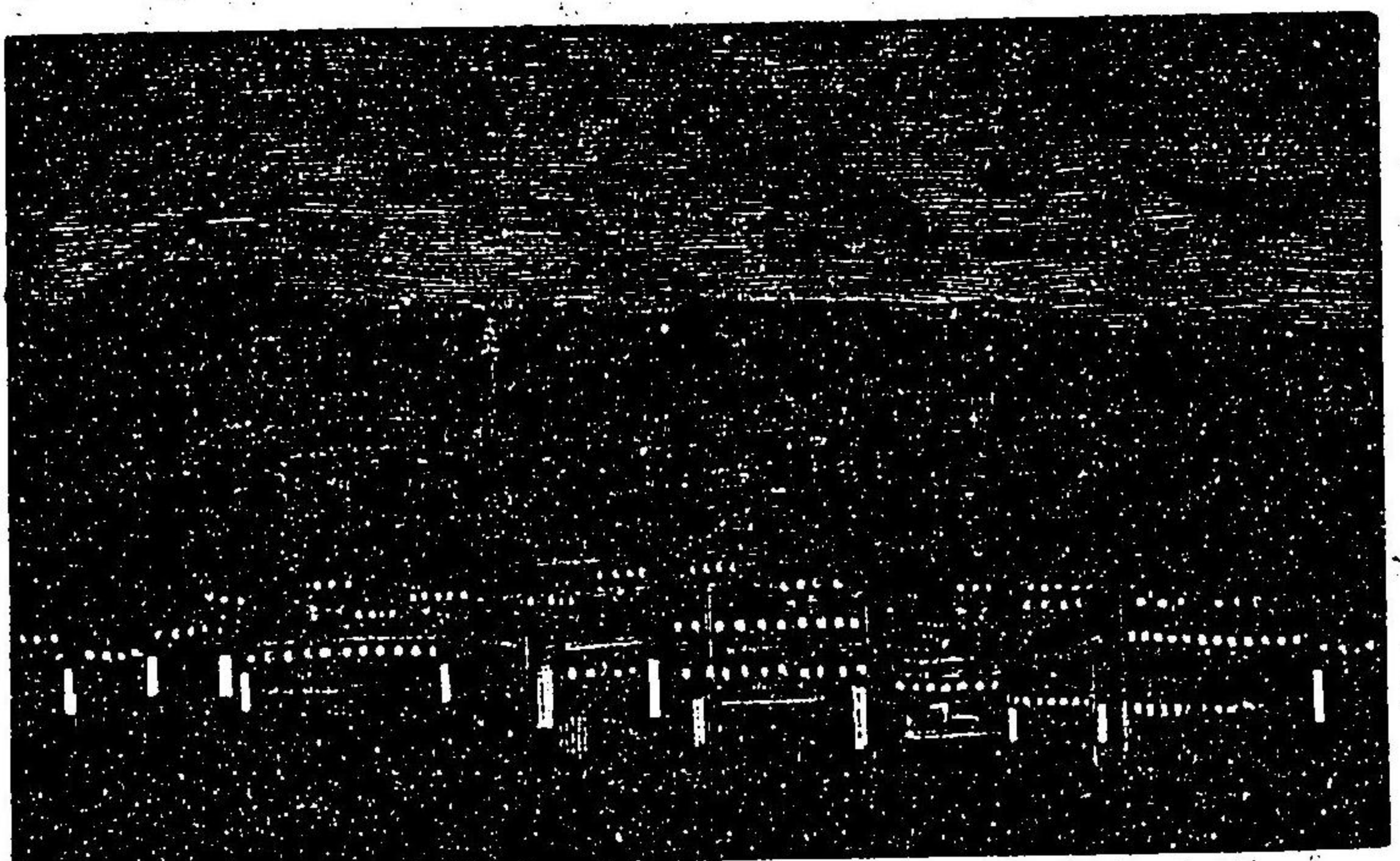
經たるものあるも、毫も腐蝕せず。明治二十五  
年七月二十四日旭川水潦あり。岡山ありて以來  
稀に見るところ、全市幾んど水のために没せら  
れ、京橋亦たその中央と斷たる。これ、まこと  
に惜しむべきこととす。

魚市場 (橋本町)

旭川の西岸、京橋の北下に於て、毎朝魚市場を  
開く。魚舟は遠く兒島地方より來り、その數、  
幾十艘といふを知らず。魚買こゝに群集し、そ  
の價を争ふ状またこれ一の奇觀たり。その市を  
開く、概ね午前六時前にして、同八時前に至り  
て止む。

納涼

魚市場。納涼。



(京橋夜景)

岡山名所圖會

岡山に於て、その最も賑しきものを舉ぐれば、京橋の納涼亦その一たり。その盛夏の候に方りてや、旭川の東濱に茶屋を掛け、酒食を供へて客を待つもの、その數、百餘、各軒に紅燈を吊り、力めて人目を惹く。夕陽既に収れば男女群を爲して、この地に集り、その雜沓最も甚たしく、その間觀世物を出すあり。劇を演ずるあり。而して遊客の妓を涼棚に招きて、興するあり、老人の相對して碁を圍むあり。絃歌湧き、鼓鐘響き、而して涼を納るゝの船亦た紅燈を吊りて、其の艶なるを競ひ、一帯の清流、爲りに紅とあり、寧ろ清味の何處に在るやを知らむ。その甚だしきは、夜を徹するものありと云ふ。

中島

旭川の東岸に在り。その由來を討るに、文祿二年羽柴秀吉、宇喜多直家に説き、朝日川の中間に二條の町を作る。之を東中島、西中島と名け、石切半入といふ者に賜ふ。初め秀吉、清水長左衛門と高松に攻め、後毛利家より軍を進めけるに、秀吉、その兵寡く、兒島に至りて、援兵を乞はんとし、從者六名を隨へ、備前國宮崎に至り、兒島

岡山名所圖會

の山伏尊龍坊の居宅を訪ふ。一土人あり、秀吉を導き、藤戸の渡を過ぎ、引馬の峠と超え、林權現山伏の居に至る。秀吉、尊龍坊に加勢を乞へとも、從はず。則ち小舟に乗じて、下津井より岡山に至り、宇喜多直家を説き、兵を催をよして備中に至り、終に和成る。かの秀吉を導きたるものは、石切久兵衛といふものにて、その恩賞として、中島を興へたるものなり、と。その半入と稱するは、片髪薄く剃り下げ、その容奇なるを以て、秀吉の名けたるにて、その子孫久しくこの地に住したりといふ。

遊廓 (西中島町 東中島町)

岡山は藩政の時遊廓を許さず。後縣と置かるゝに至りて、中島と許可地とし、今幾んどその要部を占め、西中島は旭川に臨み、東中島はその支流に臨み、貸座敷の惣數六拾四として、娼妓の數壹百四拾、夜々絃誦湧くがごとく、何れの痴漢ぞ、來りて、この泥中に國寶を投ずるものぞ。

劇場旭日座 (西中島町)

はまた西中島に在り。高砂座と同時に新築し家屋宏爽にして、旭川に臨み、高砂座と

岡山名所圖會

旅宿。中橋。梅檀稻荷神社。尋常岡山小學校第三支校。  
東西相對して岡山の二大劇場なり。

旅宿

多く、往時はこの他に見る稀ありしも、今は諸所に散在し、この地に來るものは、橋ね下流の客たるに過ぎず。西中島と東中島との間に架するところの橋を

中橋 (中島町)

といふ。その橋の西に一小社あり。

梅檀稻荷神社 (西中島町)

といふ。梅檀の老樹、社殿を掩ひ、路傍の一小社に過ぎざるも、遊廓の主人娼妓輩の尊信するより、その名市中に高し。

尋常岡山小學校第三支校 (小橋町)

中橋を渡りて、北に方り、白聖輝くところの家屋あり。初め環翠小學校といひ、第五小學校區に属したるものあるも、今尋常小學校の第三支校となれり。この邊桃樹頗ふる多く、自から佳致なり。

岡山名所圖會

小橋 (小橋町)  
は中橋を過ぎて、その東に架するものなり。これを渡りて右に折れ、東をれば、左に一の牌門を認む。門前、暈酒不許入山門」の石標殿として存在し、門の上に「大教院」の額を掲ぐ。これと

國清禪寺 (小橋町)

とす。門内松林鬱茂し、その本堂に至るまで、赤砂を散布し、掃除至らざるなく、その幽邃閑雅にして、清淨高潔ある、岡山第一の梵宇とす。寺は池田家の菩提所にして、その國清の二字と、灌祖の諡字に據るものなり。支院二三あり。境域廣闊にして、且つ本堂清壯たり。寺僧十數名ありて、寺主之と率ひ、毎朝市中と巡周して讀經し、未だ曾て怠らず。寺に書畫を藏す。畫、觀るべきものあり。寺の東に道あり。之を沿ふと東すれば、

東山公園 (門田)

に在る。東山公園は一に偕樂園と稱し、境内に招魂社あり。戊辰の亂、及び西南の役

小橋。國清禪寺。東山公園。

東山公園

に戦死せしもの忠魂を祭るところにして、招魂碑二基あり。その一に云く

嗚呼生則致力予 聖天子。死則享賢公之祭祀。

是豈非士平日之至願哉。明治元年戊辰正月。

聖天子新親万機。更張綱紀。然而有頑然暗順

逆、敢抗 王命者。於是大興六師。以征之。

既而逆徒服其威德。悉歸順焉。此役也、吾藩

士卒勇戰。殲厥命者不訾矣。吾公嘉其忠烈。

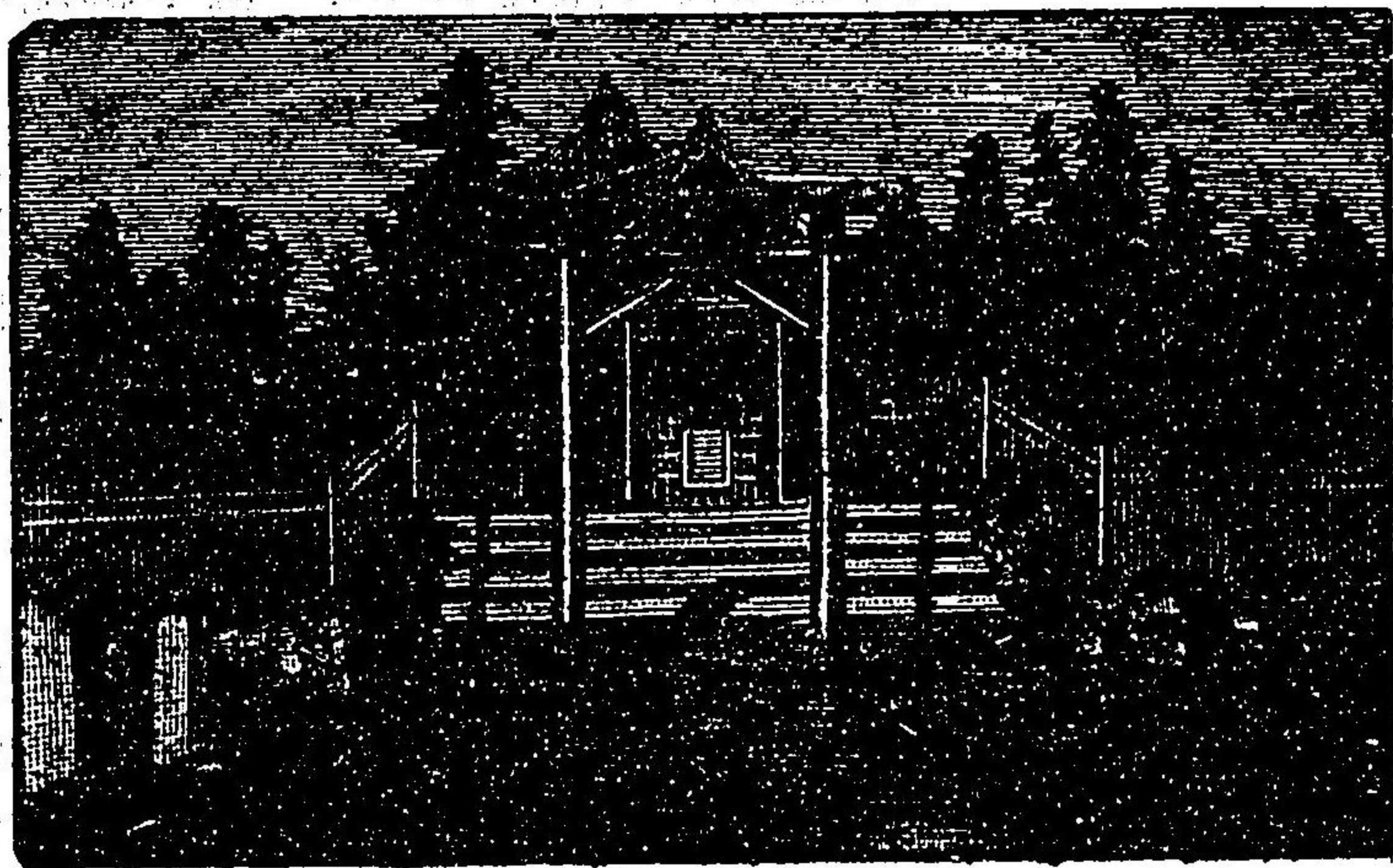
爰設招魂之場。以祭其靈焉。二年六月建碑勒

之。永爲臣子之明鑑矣。國老伊木忠澄謹撰。

これ、招魂社の起源にして、爾後毎年四月二十

六日その祭典を執行し、有志の徒は種々の武技

を奉納し、烟火戯を打ち揚げ、時宛かも櫻花爛



(社 魂 招)

岡山名所圖會

燦たるの候なれば、士女の雑沓すること、一層甚たし。社の傍に土倉一亭高田小洲、加藤次郎等の碑あり。皆な西薇山の撰文にかゝる。山上に

東照宮 (門田)

の祠あり。初め寛文二十年池田光政、東照権現を勧請せんと欲し、之を時の徳川將軍に請ひて許され、江戸より勧請し、道中は國老壹名、物頭二名、諸士拾名その他奉供奉し、伏見より御座船みて大坂に出て、新に船を造り之に奉して岡山に入り、國老一名、國境に迎へ。藩主自ら之を川口に迎へ。命じて神社を東山に經營せしめ、ここに祭祀し、正保三年初めてその祭禮を執行し、神輿を御行旅所に渡し、その式の嚴なる、他に比なく、當時祭禮の前日光政自ら通路を巡檢し、當日早天參拜したり、といふも以ても、その一斑を知るべし。然れば池田家代々之を尊信し、維新以前は招魂社の麓まで、垣と結び、妄りに人の出入するを禁じ、その山門には下馬の制札を建て、頗る威嚴を存せしも、今は衆庶の借樂に供し、その傍に在りし社僧地も或は開かるゝあり。試みに登臨せば岡山市中はいふ及ばず、兒島灣に至るまで、總て來りて眉睫の



玉井宮。三動神社。

間に聚まり、人をして心胸を快裕ならしむ。東照宮の南にござりて

玉井宮 (門田)

あり。亦これ一雅潔の神社、縣社に列し、岡山市中旭川の東に住むものは、その氏子たり、社内に老松の蜿蜒たるあり。紫藤の蔓延するあり。春時最も人の参詣する多し、傳へらふ、玉井宮はもと岡山の東南海上二里の地米崎に在り。米崎の突出するところと光明崎といふは、玉井宮の御燈光明かにして、常に海上を照し、船に乗るもの便とせしによるものにて、後、その神社を今の地に移すや、始めてその嶺上に御幣を建つ。因て神社の後の山を稱して建幣山といふなり、と。蓋、神社に今尚海上の安全を祈りて、燈籠、石柵を寄進せしものあるは、之か爲なりとぞ。東照宮と一路を隔て、北に益ゆる山に、

岡山名所圖會

三動神社 (門田)

あり。維新の後建設せるところにして、和氣清磨、楠正行、兒島高德を合祀するものとぞ。當時士氣激昂し、力めて勤王の志を起しめんとしたるなれば、この社の建設、

岡山名所圖會

亦幾分かこの意より生じたるものにして、その清磨と高德とは、本州の人たるにより、正行は池田家の藩祖に縁故深きを以てなり。この山、東照宮所在地に比されば、頗る高く、隨ふて眺望亦た濶大あれども、阪路較や急なれば、婦女等の上るもの甚だ少し。

少林寺 (國富)

三動神社を降りて、東まれば、西大寺、サテは上寺に到るへさも、歩を轉じて北に往けば、少林寺あり。庭園幽雅にして春時遊人來り訪ふ。寺の前に別に一字あり、五百羅漢を安置す。長、各、丈餘、亦た一顧すべきもの。

瓶井山 (澤田)

瓶井山は少林寺の北に在り。寺院二三あり。多く廢頽し、人の訪ふ稀なるも、塔ありて山上に屹立し、岡山の爲に一の佳景を作す。之を旭川の西岸より望めば、幾んど京都東山の光景あり。これより西すれば國道に出で、東北に往けば、播磨に往くべし。途を南にとりて、小橋町に出で、再び國清禪寺の西に沿ひ、南に往けば、

行幸堤 (花畑)

少林寺。瓶井山。行幸堤。

岡山名所圖會

岡山紡績會社。

あり。この地根の老ひたる多く、近年までは、  
 卑野の民住居し、不潔言はんかたなかりしも、  
 明治十八年車駕西狩の際、退去せしめ、道路を  
 廣め、大にその面目を更め、つゝきて柳樹十數  
 株を栽ゑ、いよく風致を増す。その尽る處に  
 碑あり、建つ。題して「行幸堤」といひ、その背面  
 に時の岡山區長手代木勝任の國詩一首を刻す。」  
 岡山紡績會社 (花畑)  
 行幸堤を過ぎて、南すれば、數町ならずして煉  
 瓦石屋の旭川東岸に建築せられしを見るべし。  
 これを岡山紡績會社とす。曾て一たび火災に罹  
 りたるも、愈よその事業を擴張し、職工數百人  
 晝夜その業を執り、内には電機燈を使用し、蒸



(岡山紡績會社)

岡山名所圖會

漁機關を運轉し、烟筒突屹として中天に貫ぬき、漁笛颯々として響を絶えず、販路頗  
 ふる廣くして、その名、世に知る。門前に老松二株あり、宛も龍の蟠まるとぞく、  
 亦これ、この地の一佳趣。

岡山精米會社 (網濱)

旭川の堤防に沿ふて、南下し、網濱に至れば、岡山精米會社あり。煉瓦石屋にして、  
 烟筒空に聳ゆ。これより進みて、愈よ南すれば、終に

三番港 (江並)

に達す。港は岡山を南に距る一里餘の港口にして、東西の漁船皆なこゝに輻湊し、日  
 に數回の往復あり。大阪、神戸、四國九州に往んとするもの、皆な此よりし、所謂  
 岡山の港なり。山陽鐵道の開通するより、神戸、大阪に往復するの客は、較や減少し  
 たれども、今尚ほ盛あり。岡山に名高き

白魚、蜆

は多くこの邊にて漁獲するものなり。これより再び舊路に復り、平井村邊より船を雇

岡山精米會社。三番港。白魚、蜆。

福島港。住吉神社。春日神社。

ふて

### 福島港 (福島)

に渡れば、亦これ、一の村落たり。往時はこの港に和船の出入するもの、頗ぶる多く、娼樓あり、一時盛を極めしも、旭川の漸く埋没し、瀬船の往復するに至りて、人のこの地に至るもの稀なり。然れどこの地に

### 住吉神社 (福島)

ありて、毎年七月十五日祭典を執行し、當日は納涼をかねて、参詣するもの踵を接し、小舟のこゝに集るもの、幾十艘たるを知らず。岡山近地稀に見るの雑沓なり。これより北に至れば七日市に出づ。この地に

### 春日神社 (七日市)

あり。社は縣社にして、春日明神を祭る。岡山の南部の氏子多く、境内亦廣く、自ら幽閑の趣あり。傳へしふ、春日大明神の額は往古南都春日野の鹿、口に噛みて、この地に來り、旭川の濱に臥して死す。その額を納めて、春日大明神を祀る。その鹿の

死したる額を名けて、額鹿瀬といふ。

### 岡山監獄 (二日市町)

春日神社の前を過ぎ、旭川の西岸を北に往けば、二日市に出づ。この地に岡山監獄あり。再度火災に罹り、近來またく新築し、その境域いよく廣くなり、中々工場備はり、種々の工業を執り、中にも錦兜起のごとき、他に比類なきものなりとせ。監獄の近傍に

### 魚市場 (二日市町)

あり。京橋邊と毫も異ところあり。

### 尋常岡山小學校第二支校 (船頭町)

尋常岡山小學校第二支校は船頭町に在り。旭川の西岸にして、魚市場より北に往くと數町、その家屋、火災を経て、新築したるものあるを以て、頗ふる清潔なり。その西に方り、南北に通ずる道路あり。これ亦た船頭町といふ。寺あり、

### 妙勝寺 (船頭町)

岡山監獄。魚市場。尋常岡山小學校第二支校。

## 岡山名所圖會

## 岡山名所圖會

岡山名所圖會

妙勝寺。本願寺。光清寺。菓子製造者。  
といひ、日蓮宗に屬し、寺院廣潔にして、市内有數のものたり。曾て日誠上人といふものあり。この寺に住持たり、字を察信といひ、相摸國三浦莊に生れ、後、大僧都となり、法印に上る。度世六十一年にして歿す。時に七十二。京都深草寶塔寺に荼毘し、遺骨を、この寺に葬むるといふ。

本願寺 (山科町)

妙勝寺より北に往き、西に折れ、山科町に至れば、本願寺あり。いよく西して、小原町に至れば、寺院二あり。一を

光清寺 (小原町)

といふ。近年この寺の附屬地に、岡山感化院を設く。その設立以來漸く効績顯はれ、悪少年の感化されて、その職を得たるものありといふ。小原町の以東に在るの町を、高橋町、兒島町とし、この間、亦、寺院數ヶ所あり。その西に在るの町を、平之町、藤野町といひ、

菓子製造者 (藤野町)

岡山名所圖會

頗る大く、幾んど戸毎に之を製造するがごとく、その販路頗る廣しといふ。兒島町を北すれば、紺屋町に出づ。町に

耐火煉瓦製造所 (紺屋町)

あり。その製造するところ、頗る世の好評を博し、第三勸業博覽會に於て、有功賞を得たるものにして、その初、稻垣平衛なる人の刻苦經營して、起せしものにて、その家屋宏壯ならざるも、境域廣く、烟筒空に聳ゑて、其竈に一時に三万餘と製造するといふ。

明習館 (天瀬)

耐火煉瓦製造所の北に對し、一區域を爲すものあり。明習館といふ。岡山監獄看守押丁等の文武を講習するところとす。その東に

錦莞製造所 (天瀬)

あり。この地もと晩翠小學校と稱し、岡山區第三番學區たりしも、尋常小學校を設くるに及びて、これを廢し、その家屋地所と拂下げ、こゝに錦莞製造所を設立するに至

耐火煉瓦製造所。明習館。錦莞製造所。

岡山名所圖會

岡山米穀市場。可真町。花月亭。

れり。抑も錦莞之岡山の名産にして、磯崎眠龜なる人の發明せるところにして、その外國に輸出せるもの頗る多く、近來この地方に開作の多き、實に之に因らざるあり。錦莞製造所の東に路を隔て、

岡山米穀市場 (天瀬)

あり。初め岡山に米商會所ありしも、中途之を廢し、後、之を再興せんとするも果さざりし。米穀市場はもとより米商會所と、その種類を異にせれども、その地位最も接近したるがゆゑに、幾んどその景氣を復したるの觀あるなり。紺屋町と北に往けば、

可真町

とす。この地天瀬の内にして、割烹居軒を並べ、中に就て

花月亭

その最もあるものとす。樓に貯ふところの藏穀貳拾有餘名にして、岡山三大樓の一とす。之と過ぎて西大寺町に出で、西に往けば俗に新西大寺町といふ。右に折るれば東中山下とす。往く數町あらずして、右に

岡山名所圖會

中國民報社 (東中山下)

あり。轉創日向は淺きも漸く隆盛なるとす。その西に路を隔て、

岡山市役所 (東中山下)

あり。もと舊藩士の邸宅にして、家屋も亦、舊に依る。いよく北すれば、

黒住教會所 (東中山下)

あり。その構造疎略にして、もとより見るべきものあり。蓋、その本社を以てなるとん。

基督教會堂 (東中山下)

黒住教會所を北に距ること、覺町なるとして、基督教會堂あり。近年新築とるところにして、二層より成立し、洋館に摸したるものとす。稍北に往けば、右に

千歳座 (東中山下)

あり。一の寄席にして、近年新築したるものなり。東中山下と北に往きて、右に折るれば、

岡山名所圖會

岡山地方裁判所。直税分署と間税分署。大隊區司令部。尋常岡山小學校。

岡山地方裁判所 (弓ノ町)

あり。家屋は近年新築したるものにて、その境域頗る廣し。これより再び西に往けば

西中山下

に出で、南すれば、右に

直税分署と間税分署 (西中山下)

あり。舊藩士の邸宅を焼るものにして、その南に隣りて

大隊區司令部 (西中山下)

あり。亦、これ舊藩士の邸宅を焼るものにして、これより尙ほ南すれば、右に

尋常岡山小學校 (西中山下)

の本校あり。明治二十四年新築したるものにして、惣坪數二千七百。生徒の數二千二

百にして、校舎は美麗なすといへども、雅潔なり。運動場廣濶にして、西は柳川に

接せり。

岡山日報社 (西中山下)

岡山名所圖會

は西中山下に在り。創立以來既數年にして、

今山陽新報、中國民報と併せて鼎立せり。

西中山下の南極るところ、

松の江樓 (西中山下)

あり。岡山三大樓の一にして、藝妓貳拾餘名を

貯はへ、その家屋宏壯、その庭園幽雅、今は變

じて旅館とあるも、尙ほ宴をこゝに開くもの多

し。これを過ぎて新西大寺町に出で、右は折る

れば、常盤町新柳川筋に出づ。これより斜に東

南に至れば

劇場高砂座 (大雲寺町)

あり。初めこの邊は外濠に属したるを埋めたる

ものにして、その家屋は煉瓦石造と木造とに分



(座 砂 高)

岡山日報社。松の江樓。高砂座。

岡山名所圖會

大雲寺。巴玉座。瓦町。景福寺。正福寺。  
 ち、二拾二間に拾八間とし、外には庭園を設けたりしも、近頃之を破壊し、大に風景を損したり。然れど場の粧飾、地の便利、等固より岡山第一の劇場たるに負ざるあり。

大雲寺 (大雲寺町)

劇場高砂座の南に一寺あり。大雲寺といふ。その町を大雲寺といひ、日限の地藏を以て名あり。その縁日には參詣するもの頗る多し。大雲寺の東に方りて、一の寄席あり。

巴玉座 (天瀬)

といふ。またこれ近時の新築にして、千歳座と南北相對して、岡山の二大寄席たり。

瓦町

は大雲寺町の西に連るの地にして

景福寺 (瓦町)

あり。禪宗に屬し、寺内に天満宮を祭る。次に

正福寺 (瓦町)

あり。寺院廣からざれども、頗る雅潔なり。これより西すれば

大供

に出で、御野郡に屬し、

黒住神社 (西中野)

に至るべく、神社は中野村に屬し、大供よりは一里にして近かるべし。この街道は庭瀬、玉島、笠岡、備後地方に往くを得べし。再び舊路に復りて、大雲寺町より北に折れ、濱田町に至れば

報恩寺 (濱田町)

あり。いよく北に往き東田町に至れば

蓮昌寺 (東田町)

あり。岡山第一の巨刹にして、その堂宇の宏潤なる類稀あり。同寺は佛住山といひ、初め岡山城大手筋に在りしと、後に森下町に移し、復た

大供。黒住神社。報恩寺。蓮昌寺。

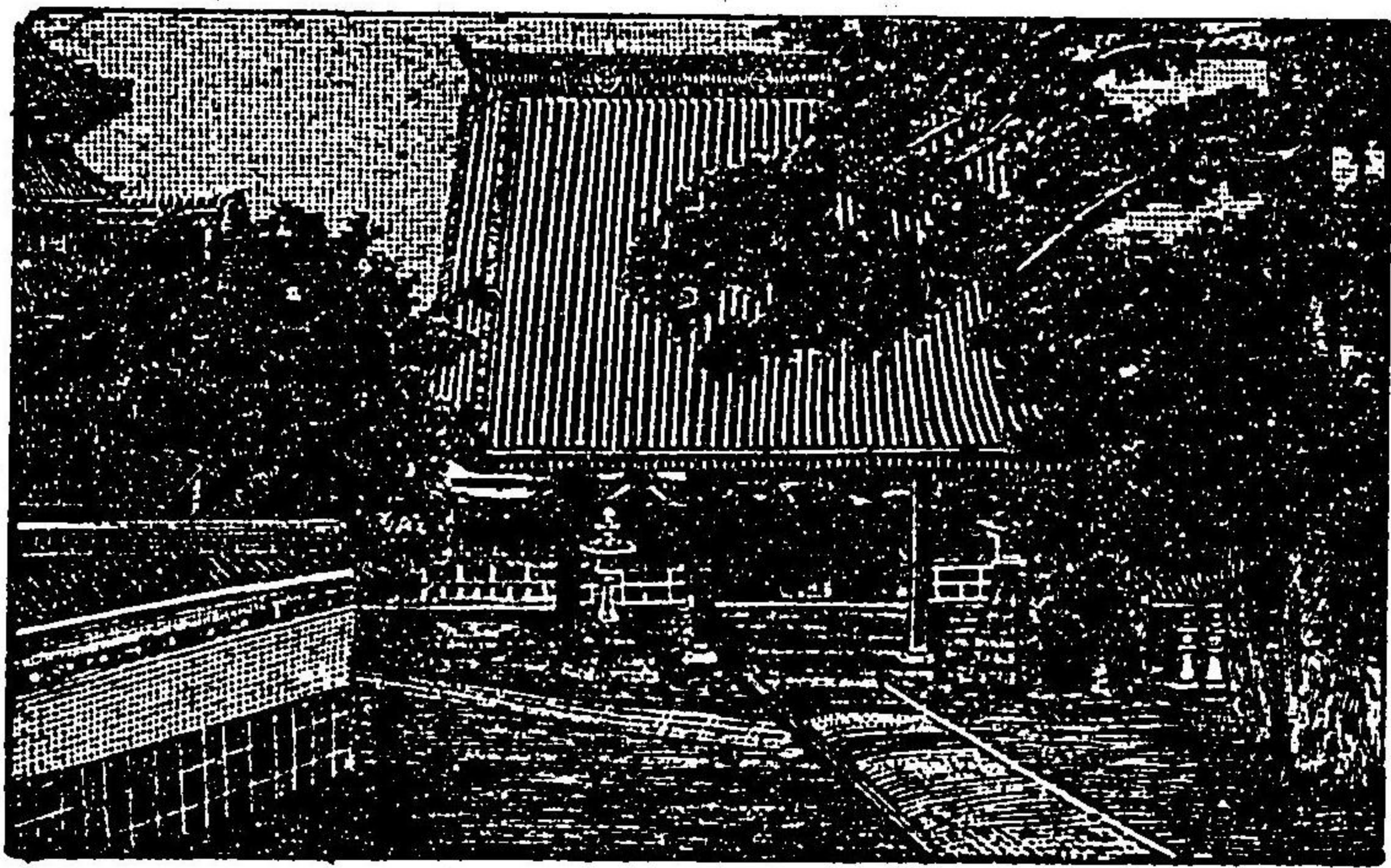


(社 神 住 黒)

岡山名所圖會

蓮昌寺。藥師院。  
 今の地に移したるものにして、康正三年大覺大僧正妙實聖人の創立に係り、妙實は日像上人を推して、開祖とし、自ら二世と成り、本山は京都妙覺寺にて、七堂伽藍を備へ、境内に支院八あり。この寺の第一寶物は大曼荼羅にして、唐紙七拾八枚を繼ぎて成り、開山日像の眞筆にして、毎年陰曆三月二十八日より十二日間開扉し、五穀豐饒を祈り、善男善女の參詣せるもの、腫を接し、香火絶ゆることなし。境内に守護神あり。最尊一丸大明王といふ。毎月一日を以て縁日とし、晝夜參詣するもの頗る多し。蓮昌寺の裏門を出で、磨屋町に至れば

藥師院 (磨屋町)



(蓮昌寺)

岡山名所圖會

あり。今眞言宗法務支所の有るところにして、浮田秀家の上道郡沼城より岡山城に移るに方り、沼城の木材を以て營造せるところあり。開基は僧津梁にして、その縁起を尋ねれば、上道郡平井村にて漁夫の海中より得たる佛像を安置したるにて、今に至るまで、その佛体に蠟燭の附着するを見るといふ。寺院亦廣くして、境内に支院多かりしも、今は敗滅に歸したるもの二三あり。藥師如來の本体は船載の物に係はるといふ。その縁日は毎月二十一日にて、その最も盛なるは、三月なりとす。

岡山寺 (磨屋町)

岡山寺は藥師院の西二丁餘の地に在り。金光山といふ。人皇四十六代孝謙天皇の御宇、天平勝寶元年勅命を奉じて、報恩大師開基するところにして、古昔岡山城の第二廓の内に在り。その後人皇六十二代村上天皇の天曆年間、信源上人重て七堂伽藍を再興し、天正年間浮田直家の岡山城に入るや、今の地に移したるものにして、本尊は千手觀音とし、脇立四天王、天台傳教兩大師なり。その縁起によれば、昔、本州唐河の邑に一民あり、姓は金光、名は某、常に漁業を事とす。或時岡山に往き靈光の石中



岡山名所圖會

兵庫大林區署派出所。本行寺。妙應寺。金刀比羅神社。

に在るを見、之を穿ちて千手觀音大悲の金像と得たり。長一寸計、時に神人來りて新に二尺八寸の木像を刻み、かの靈像をその胸中に安置し、終に梵堂を岡山の傍り作り、金光山岡山寺と号す、と。その藏するところの寶器には善光寺如來御手判金塗厨子入善光寺如來三國傳畫三幅弘法大師筆、不動尊像一幅等なりといふ。磨屋町より再び柳川筋に出れば

兵庫大林區署派出所 (西中山下)

あり。曾て岡山大林區署を置きたるも、これを廢さるゝに及びて、派出所とある。柳川に沿ふて北に往けば

本行寺 (山崎町)

あり。日蓮宗にして、堂宇やゝ宏壯なり。いよく北に往けば難波町に入り

妙應寺 (難波町)

あり。寺院壯麗にして舊觀を改めず。難波町の西を市の町とす。次を丸龜町とす。町に

金刀比羅神社 (丸龜町)

あり。壯麗狭小なれども、人の參詣するもの鮮からず。その西を野田屋町とす。

劇場柳川座 (野田屋町)

あり。岡山にて第三位に在るものなれど、近年新築し、大に面目と更りたり。然れどこの坐に來り演ずるの俳優は多くはこれ地方の小家數たり。柳川座より南に距ること、數町ならずして、一の青樓あり。名けて

一富士 (野田屋町)

と云ふ。亦これ一の青樓、岡山三大樓の一にして、護效を貯ふこと二拾名に過ぎ、その地一方に僻在したれども、家屋雅潔なり。或は評すらく、松の江は月に宜しく、一富士は雪に宜しく、花月は花に宜しく、と。蓋、花月は庭園に櫻樹數十株ありて、その花の開くに方りては、香雲漠々として、夜の景尤も可なり。松の江の樓臺廣潤にして、而もその庭園の雅潔なる、月に宜しきは論なく、亦、雪にも頗る適す。獨り一富士光景の觀るべきものあきも、その密雪天地と鎖して、峭峯骨に徹するの時、爐を擁して、淺酌低唱されば、又、一種の趣味その裡に在るべきか、ア、これ、その觀

劇場柳川座。一富士。

料理屋と藝妓。旅店。西川。

に宜しといふ所以なるか。わが知るどころにあらざるなり。

### 料理屋と藝妓

岡山の三大樓を寫し了りたるにより、こゝにその他の料理店と擧ぐれば、その數百七拾三、藝妓の數と擧ぐれば七拾七、この他に町藝者と稱するものあり。而してその料理屋と稱するものは、大なるあり、小なるあり、群衆に宜しきあり、密友相會するに宜しきあり。その名の同じきを以て、その實の異なるを推さば、誤まれり。その重なるものは、大黒屋、藤久、山佐、魚嘉、山啓等にして、三好野花壇は市外なれども、停車場の傍に在り。

### 旅店

はその數百三拾四にて、その重なるものは自由舎(上之町)、松の江(西中山下)、三好野(西大寺町)、魚嘉(紺屋町)、池田(川崎町)、魚春(石關町)等にして、水田(紙屋町)、高橋屋(新西大寺町)のごとき、人を容るゝの多きを以て名あり。

### 西川

野田屋町の西に川あり。西川といふ。旭川の支流にして、岡山の南北と貫流し、その西岸を西川といひ、多くは舊藩士の邸宅にして、人家稠密したるも、別に寫すべきものあり。西川より上出石に出づれば即ち

### 岡山停車場

にて、その足の至らざるどころあるも、幾んど岡山を一周し畢れり。その詳細を寫さんと欲せば、小冊子の能く盡すべきところにあらず。乃はちこゝにその大略を記して、岡山名所の指南車とすといふ。

## 岡山名所圖會

### 岡山名所圖會畢

明治二十五年九月四日印刷  
明治二十五年九月五日出版

版權登錄

編纂者  
兼行者

岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸

北村長太郎

印刷者

岡山縣岡山市大字六番町一番邸

加茂吉郎

發行所

岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸

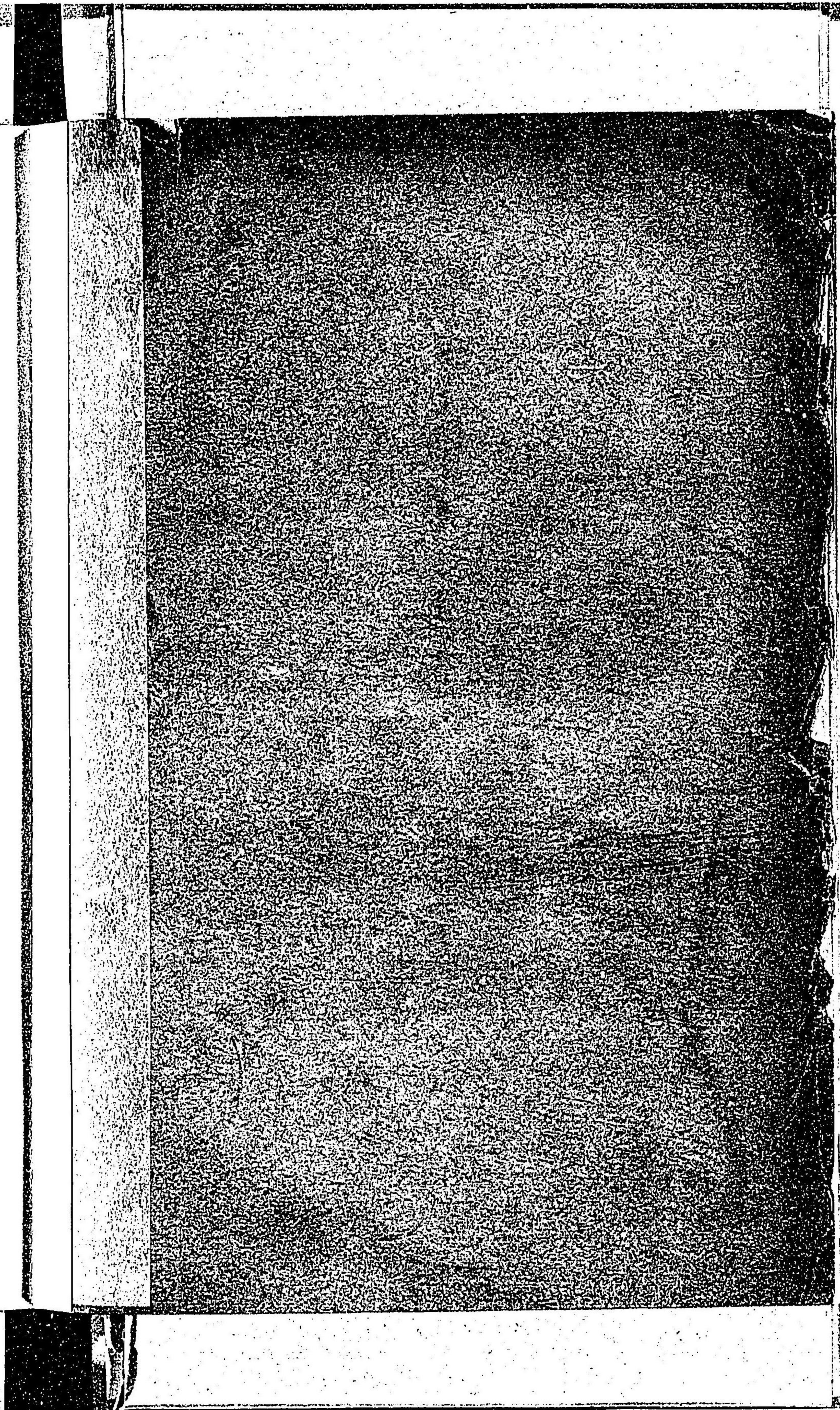
細謹舍

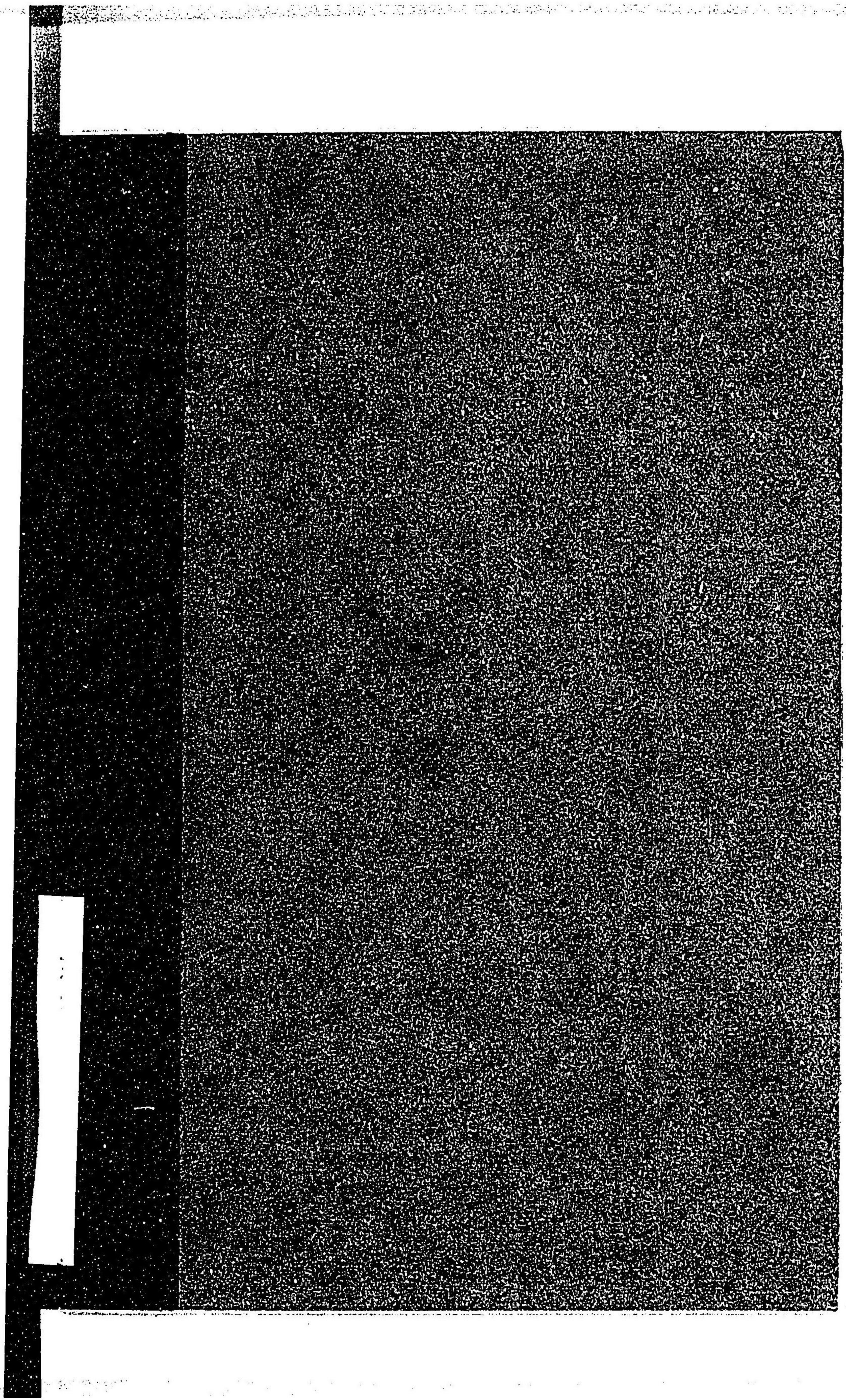
版權所有

印刷所

岡山縣岡山市大字東中山下十四番邸

文友館





特51

829

岡山名所図会

国立国会図書館

025815-000-2

特51-829

岡山名所図会

北村 長太郎 / 編

M25

ADC-3356

